

2001年度

講義計画

桃山学院大学

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文	03	通 期	2単位	岡 本 洋 之
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>私はかつて英国に滞在していたとき、現地の人々からさまざまな質問を受けた。「Japan とは、どういう意味をもつ言葉なの?」、「TOKYO と KYOTO は字が入れ替わった綴りになっているけど、どうしてなの?」、「サムライって、そもそも何なの?」、「日本の北の方にはヒゲの濃い民族が住んでいるんでしょう?」等、等。私はこれらの質問に答えながら、学校で与えられた知識はその多くを忘れているのに、多少とも自分で疑問をもって調べたことはしっかりと覚えていることに気がついた。</p> <p>自ら疑問をもち、それを追究するなかで発見したことを、文章にまとめる——これこそみなさんが大学で行なうべき学問であり、研究である。それは、すでに先人が発見したことを完成品とみて頭に詰め込む「勉強」とはまったく異質の、いわば知的生産の作業である。</p> <p>「勉強」のできる人が幅をきかず時代は終わった。これからは、知的生産のできる人が生き残るであろう。そこで本授業では、みなさんが自ら問いを立て、それを追究し、結果を論文にまとめるという、研究の基礎訓練を行なう。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>【前期】まず、「私の夢」(仮題)等の短い作文作業を通じ、論文のテーマを絞りこんでいく。テーマ決定後は書目や情報カードを作成しながら、論文のアウトラインを作りあげていく。</p> <p>【後期】秋に論文下書きを完成し、冬に清書を仕上げる。論文は長くなくてもよいが、序(本研究の目的と方法)・本論・結論・注の体裁が整っていることを要する。</p> <p>★なお講師は本来出席をチェックすることを好まないが、各自の進行状況を把握したり、文章作法等についての指導をする必要上、みなさんには毎回出席して教室で作業することを求める。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>テーマ報告書や情報カード、論文下書き、清書等の提出物の評価に、主要なウェイトを置く。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>本多勝一『日本語の作文技術』(朝日文庫) 保坂弘司『レポート・小論文・卒論の書き方』(講談社学術文庫) 澤田昭夫『論文のレトリック』(講談社学術文庫) 吉群廷治『論文・レポートのまとめ方』(ちくま新書) ★他にもあるが、授業中に紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>木下是雄『レポートの組み立て方』(ちくまライブラリー)1990年</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文	04	通 期	2単位	片 倉 穰
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>本年度は、まず本多勝一・古郡廷治・嚮田隆史の著書を受講生全員で読んでその概要を理解し、これらを基礎にして、できるだけ多くの論述作文を書く練習をする。一方で、すぐれた文章・論文を読む機会を与え、他人の作品から論述の技法を学ばせる。受講生の作品を素材にして相互に検討する時間もとり入れたい。ほとんど毎時間(出席を重視する)、所定の課題で書くことが要求されるが、日頃の実践活動をとおして書く喜びを実感してほしい。</p> <p>毎回提出された作品は原則として次回、添削のうえ返却する。(書き直しを要求することもある。)前期末に書評を、学年末に小論文を提出させる。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>(1)はじめに—この演習の目標と方針 (2)自己紹介文 (3)作文の技術 (4)論文の書き方 (5)論文の書き方—ビデオをみる (6)人生論—「友情論」他 (7)書評の書き方(解説) 《夏休みの課題》書評(2000字) (8)小論文の課題提出、概要発表</p> <p>(9)大学・教育論—「学歴の功罪」他 (10)新聞の記事を読む① (11)文化論—「いわゆる方言について」他 (12)小論文作成状況の点検 (13)政治論—「日本人の政治意識」他 (14)新聞の記事を読む② (15)国際問題—「世界の市民」他 《学年末の課題》小論文の提出(4000字) (16)おわりに—反省文提出</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席状況、期末試験あるいはレポートにより評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>本多勝一『日本語の作文技術』(朝日文庫)、朝日新聞社、1982年 古郡廷治『論文・レポートのまとめ方』(ちくま新書)、筑摩書房、1997年 嚮田隆史『小論文に強くなる』(岩波ジュニア新書)、岩波書店、2000年</p>			
<p>[教科書]</p> <p>とくにない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文	05	通 期	2 単位	木 下 昌 巳
【講義概要・学習目標】 文章は、実際に書いてみないことにはうまくならない。この授業は、文章を実際に書くことを中心として、広い意味で文章を書く技術を身につけてもらうことを目標とする。最初の数回は、要領をおぼえるまで、木下が題を提示して短い作品を書いてもらう。夏休み以降は、学生と木下と相談の上で、学生各自の書きたいテーマを書いてもらうことにする。授業は実際に作文を書いてもらうことが基本となるが、それに加えて、図書館の使い方、資料の集め方、コンピューターで文章を書く練習、Eメールの使い方なども授業のなかに取り入れる。	【講義計画】 最初のうちは、原稿用紙二枚ぐらいのものを数回書いてもらい、それを添削し返却する。後期になると、パソコンを使って、自分の書きたいテーマでより長い文章を書いてもらい、できれば、学生同士の作品を批評しあうことを試みたい。			
【成績評価の方法】 提出した作文による	【参考文献】			
【教科書】 なし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文	06	通 期	2 単位	佐 藤 慶 子
【講義概要・学習目標】 あなた方は、携帯電話やポケットベルで、友人達と絶えず連絡を取り合っているが、果たして、お互いのコミュニケーションは深まっているのだろうか。ただ単に、お互いの居場所を確認し合っ、安心してに過ぎないのではないか。お互いの心を、より深く理解する努力をしている訳ではないのではないか。伝達手段の発達と多様化が、なぜ、意思の疎通の貧困を招いたのかを、あらためて考え、文章を書くことの重要性を再認識してほしい。	【講義計画】 <前期> (1) 原稿用紙の使い方。 (2) 自分の思い、考えを、より正確に相手に伝えるための表現法。 <後期> (1) 敬語の使い方。 (2) 礼儀正しく、心のこもった、手紙の書き方、電話の掛け方。			
【成績評価の方法】 (1) 出席（最重視） (4) 提出物 (2) 前・後期末試験 (5) 発表 (3) 夏期休暇中の課題 (6) 授業中の態度	【参考文献】			
【教科書】 市販のテキストは使用せず、講義中の板書と解説に、配付したプリントを併せて、一生、役に立つノート作りを目指す。	必要に応じて紹介する。			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文	07	通 期	2 単位	杉 岡 信 行
【講義概要・学習目標】 授業では、研究レポートや小論文が作成できるようになることを目標とする。原稿用紙の使用法から始めて、レポート作成に必要な文章表現やさまざまな知識を年間を通して学ぶ。その中では、本学図書館での文献検索の実習も含まれている。コンピュータによる文献検索に慣れていただきたい。 また授業では、計算機センターのパソコンにより、ワープロ原稿の人力を行う。データや文書が保存されているフロッピーディスクは必ず携帯してください。センターでの授業は月1回行う予定。	【講義計画】 （前期）初めに計算機センターでワープロガイダンスを受ける。授業中には400字×2枚程度のレポートを書くようにする。夏期休暇中のレポートは、自由課題として400字×5枚程度を宿題とする。 （後期）いくつかのテーマを課題として、長いレポートが書けるようにする。また、夏期レポートを発表してもらおう。他者の発表を聴きとり、質問したり意見を述べたりできるようになる。そして、その発表内容を最終レポート（400字×10枚程度）に仕上げる。			
【成績評価の方法】 出席数、レポート作品数などから総合的に評価する。	【参考文献】 野矢茂樹著『論理トレーニング』産業図書			
【教科書】 木下は雄著『レポートの組み立て方』（筑摩書房/ちくま学芸文庫）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文	08	通 期	2 単位	高 田 里 恵 子
【講義概要・学習目標】 この論述作文の授業は、少し変わっているかもしれません。 第一に、ここでは形式的な論文の書き方（章立て等々）は取り上げません。そうではなくて、自分の本当に主張したいこと・書きたいことをどのように伝えるか、嘘をつかない文章をどう書くか、ということの問題にしていきたいと思います。形式だけ整っているけれど、書いた人の怒りや悲しみや、生きいきとした関心が少しも滲み出てこない文章では詰まりません。 第二に、自分が何かを書く前に、まず他者の文章を十全に理解する術を身に付けること、これを目標とします。「書く前に読め！」というわけです。ですから、多種多様なものを読むということから始めます。読書が好きな学生の参加を期待します。 さまざまなタイプの文章に触れてもらう予定ですが、長いテキストとしては、新潮文庫版の『坊ちゃん』（夏目漱石）を自分で用意しておいてください。	【講義計画】 1. さまざまなものを読んでみる 2. 自分を見つめる 本当の気持ちを表現する 3. 『坊ちゃん』を読み解く 4. 総合制作			
【成績評価の方法】 基本的には平常点。毎回、授業中に論述作文や口頭発表の課題を出すのでそれを提出すること。とにかく、文章を読み・書く楽しさを体験して欲しいので、授業中にどれだけ生きいきしていたかを評価したい。	【参考文献】 授業中に指示する。			
【教科書】 教科書は使わないが、講義概要の欄で指示した文庫本『坊ちゃん』を各自用意しておくこと。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文	09	通 期	2単位	滝澤 武人
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>原稿用紙の書き方から始まり、とにかくさまざまな文章を心をこめて丁寧に書くということを最低限の目標とする。毎週800字前後の作文を書いてもらい、短評を付して返却する。「書く」という作業を通して、自分自身の生き方について自覚的になってもらいたい。また他者の文章を「読む」ということをも重視したい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>毎週の作文テーマは、誰でもが書きやすいようなもの、そしてどこかで自分の生きざまと関わるようなものを支持する。たとえば、「おいたち」「思い出」「初恋」「旅」「スポーツ」「音楽」「映画」「クリスマス」「生と死」「セックス」「俳句」「手紙」などである。 夏休みと冬休みには4000～5000字の文章を書いてもらう。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席と平常点</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>尾川正二『原稿の書き方』（講談社現代新書）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文	10	通期	2単位	竹中 暉雄
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>信号音を使って相互にコミュニケーションをとる能力は人間以外の動物にも存在するが、しかし文章を書くということは、人間のみの特殊な能力であり特権でもある。その文章能力が、音声文化・映像文化の発達とともに次第に低下しつつある。またパソコンの普及に伴って、ペンや鉛筆を使って文字を書くこと自体も苦痛になりつつあるし、漢字の記憶があやふやになってしまうことは、私自身もよく体験することである。しかし文章を文法的に正しく、かつ論理的に、そして魅力的に作成するということは、単に聞いたり見たりする作業とは違って、非常に能動的な「考える」作業であり、頭脳をフル回転させなければならない。ところがこのような能力は、日ごろ、ペンをもって文章を書くということから離れていると、急速に衰えていくのである。</p> <p>この授業では、いろいろな悪文の文章例によって、文章を書くときに注意すべきちょっとしたことがらを意識することから始め、文を書くことが苦痛でなくなり、むしろ楽しみとなることを目標とする。しかしそれだけではなく、他人の文章や話しを読んだり聞いたりしてその要点をまとめたり、年度末には各自が設定したテーマに基づいて集めた資料を引用した、ある程度まとまった論文を完成することにする。</p> <p>現代の大学生にとって、不可欠有意義な授業（講義ではない）にしたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション（現代社会における論述作文の必要性） 2 各種教材を使った悪文例の検討 3 指示テーマによる作文とその検討 4 自由テーマによる作文とその検討 5 指示論文・書籍の要約 6 講義の要約 7 各自テーマの設定および資料収集 8 ワープロ（パソコン）による文章作成 9 修了論文の作成および論文集の編集制作 <p>以上のような内容を、いろいろ組み合わせながら授業を進めます。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>もちろん各自の作品および出欠。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>花井 信『論文の手法』川島書店、2000年</p>			
<p>[教科書]</p> <p>使用しない。授業中に教材プリントを配布。</p> <p>国語辞典は必携（必要ない学生などいないはず）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文	1 1	通 期	2 単位	深 澤 徹
<p>[講義概要・学習目標] 科目名称は「論述作文」となっているが、内実は「基礎ゼミ」である。まず「コンパ」をして、構成員全員の親睦をはかりたい。「基礎ゼミ」の目標は、大学教育を受けるに当たっての最低限必要なリテラシー（識字）の学習である。ただ文章を書くだけでなく、レポート作成のための情報収集や、論理の運び方、章立ての方法なども学習する。さらには、口頭発表や、討論などの仕方も学習する。なお本年度のテーマは、日本の「ナショナリズム」の歴史的展開の跡付けである。このテーマに興味関心のある者の受講が望ましい。各人はいずれ、このテーマに即して、データの収集と口頭発表を行うこととなる。</p>	<p>[講義計画] 講義内容は、大きく分けて以下の4点で進行する。 1. 新聞のコラム等を分析しながら、文章の構成や仕組みを学習する。 2. 講義を聴き、それを簡潔にまとめる。 3. いくつかのテーマに則し、文章を書いてみる。 4. 資料収集とプレゼンテーションの仕方を学習し、実演してみる。</p>			
<p>[成績評価の方法] ゼミであるから出席重視。無断で休んだら即刻除籍する。どれだけ作業（文章を書いたり口頭発表をしたり）に積極的に取り組んだかで、総合的に判断する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書] 樋口裕一『ホンモノの文書力』（集英社新書 2000/¥660） 小林よしのり『戦争論』（幻冬社 1998/¥1,500）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文	1 2	通 期	2 単位	藤 井 肇
<p>[講義概要・学習目標] 自分の考えや思いを文章で表す。これが意外と難しい。うまくまとまらなかったり、相手がちゃんと理解してくれなかったりする。わかりやすい文章を書くにはどうしたらよいのか。テーマのしぼり方、まとめ方、表現方法などを具体的に学んできよう。あわせてコミュニケーションのあり方なども考えてみよう。</p>	<p>[講義計画] 課題作文の提出を求め、それに対し添削を行い講評を付けて返す。同時に実作例として教室で題材に取り上げる。</p>			
<p>[成績評価の方法] 課題作文の評価や出席状況など総合的に。</p>	<p>[参考文献] 随時、挙げる。</p>			
<p>[教科書] 特に指定しない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文	13	通 期	2 単位	藤 原 健
【講義概要・学習目標】 言語の四技能と言われる「読む」「書く」「聞く」「話す」のうち、現代社会においては、読む機会や話す機会は多いのに、特に「書く」という機会はあまりないように思われる。ことばを使って表現するのに大切なことは、表現力を養い、それを伸ばすことである。そのためには、ことばをただ単に知識として知るだけでなく、正確に意味を理解し、正しい使いかたを身につけなければならない。 この講義・演習では、文章を書くことの基本から始め、レポートや論文を書くときの要領を考え、ことばや文章についての考察を行う。また、実際に何度も書いてみるという作業を通して、最終的にはまとまった論文が一人で書けるようになることを目標とし、適宜講義も行う。また、後期には自分の意見を人の前で述べる練習として、テーマを与えてディスカッションを行い、それを小論文の形にまとめる練習も行う。 また、授業内容に合わせて、図書館実習、ワープロ実習も行う予定である。 2年生以上も登録することができるが、パソコンの操作等については、ごく基本的なことが中心になるので、その点は納得の上で登録してほしい。	【講義計画】 1. 文章表現の基礎 1) 用字法・句読法 2) 原稿用紙の使いかた 2. 文章表現の演習 1) テーマを決めて書く 2) レポートの書きかた 3) 小論文・論文の書きかた 3. 文章の構成 1) 内容・テーマ 2) 構成 3) 表記・表現 4) 推敲 5) 評価 4. ディスカッション 5. 図書館実習 (文献の捜しかた) 6. ワープロ実習 (パソコン、ワープロの操作)			
【成績評価の方法】 授業の中で指示する課題・作業について、提出・発表したものをもとに評価する。また、夏休み、冬休みには課題を出す。課題のために、テキスト以外に、新書を1冊購入してもらう。 なお、授業で使用する原稿用紙は当方で用意する。購入の必要はない。	【参考文献】			
【教科書】 吉田健正(著)『レポート・論文の書き方』(ナカニシヤ出版)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文	14	通 期	2 単位	三 浦 俊 介
【講義概要・学習目標】 本講義では、論文・レポートの書き方の習得を目標とする。問題点の絞り込み、資料の収集、論理的思考、構成力など課題は多いが、何よりも学生に求めたいのは文章の書き方そのものである。大学時代の文章修行は社会に出てからも大いに役立つはずである。 前期はレポート・論文の書き方の基本を学び、添削を受ける。夏季休暇前に作成した小論文を後期中に充実、完成させる。	【講義計画】 〈前期〉原稿用紙の使い方や表記・表現の基本を学習する。計算機センターでワープロソフトの講習を受ける。 夏季休暇前に小論文を書けるところまでもっていく。 〈後期〉前期レポートを発展させて、10枚程度の修了論文を書き上げる。配布資料や何名かの文章に対する学生相互の討論などを通して、論文の書き方について実践的に学ぶ。 前後期とも、学生は何度か原稿を提出し、添削指導を受ける			
【成績評価の方法】 ① 毎回出席を取る。欠席・遅刻の過多は減点対象とする。 ② 全講義数の3分の1以上を欠席すると失格。 ③ 正当な事由なく3回連続して欠席すると失格。 ④ 講義中の提出物・夏季レポート・修了論文を重視する。	【参考文献】 木下是雄『レポートの組み立て方』(ちくま学芸文庫)筑摩書房 古郡廷治『論文・レポートのまとめ方』(ちくま新書)筑摩書房 本多勝一『実戦・日本語の作文技術』(朝日文庫)朝日新聞社			
【教科書】 特に定めない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文	15	通 期	2 単位	安 田 真 一
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>ワープロ・コンピュータの普及、インターネットなどの情報ツールなどによって、「書く」機会が少なくなったかのように見える。しかし、どのような道具を使おうとも、自分の考えを表明し、他人に伝えるためには言葉が必要であり、それを誰にでも伝わるように、構成しなくてはならない。手紙・レポート・報告書など、ただ何となく気の向くままに書くのではなく、考えて書くこと、きちんと伝わるように書くこと、それが大切である。</p> <p>言葉に対して敏感になり、自分の伝えたいことをより正確に述べられるように、論述する技術を、身につけてほしいと思う。</p> <p>文章での表現法をまず講義形式で述べつつ、その都度特定のテーマを論述してもらいたい。前期は手で「書く」ことを重視するので、原稿用紙を各自用意してもらいたい。後期からはワープロを使用して書いてもらう予定である。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>前期は、様々な課題を与えるので、それを論述してもらい、提出していただく。ただし、状況を見て、各自でテーマを見つけてもらうつもりである。後期は、各自でテーマ設定をしてもらい、でき得るならば、口頭発表もしてみたい。前期は、手で書いてもらい、後期にはワープロを使用して書いてもらう。課題などは、出来れば話し合いながら決めたいので、積極的な参加、意見を求めたい。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>講義時の平常点、およびレポートによる。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>『国文学臨時増刊 電子メディア時代の文章法』（学燈社 2000年2月） 本田 勝一『日本語の作文技術』（朝日文庫） 本田 勝一『実戦・日本語の作文技術』（朝日文庫） 澤田 昭夫『論文の書き方』（講談社学術文庫）</p>			
<p>[教科書]</p> <p>江川 純『レポート・小論文の書き方』（日経文庫）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文	16	通 期	2 単位	柳 父 章
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>学生諸君の肉体はもう大人だが、精神はいま形成途上である。大学生活は若者の精神形成にもっとも大事な時期であり、文章を書くことは精神形成の重要な手がかりである。</p> <p>このことを踏まえて、毎時間に取り上げるテーマであるが、始めは自己紹介の文、次は友達紹介の文などから、自分の体験、とくに内面精神の形成についてのテーマ、というように、身近な文から始まって、次第に、社会問題、政治問題、思想的問題など、抽象的なテーマについて書いていく。</p> <p>論文の勉強であるから、自分の考えを、明快に、論理的に表現できるように教えたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>毎時間、まず担当者がテーマを出し、そのテーマについて説明し、次に参加者学生に、400字詰め原稿用紙で2枚程度で書いてもらい、それを提出させ、採点する。次の時間に出来のいい論文を読み上げたり、全体の出来を批評したりする。</p> <p>論文用紙は生協で販売している「コクヨの800字詰め原稿用紙」を購入して、始めの時間、そして以後毎時間の授業に持ってくること。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>毎時間提出してもらった論文を採点し、年間を通じての総合結果で評価する。 別に試験はおこなわない。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>私じしんの作文方法についての著書などを、随時取り上げるが、そのテキストは、その時々で紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>とくにない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文	17	通 期	2 単位	山 川 偉 也
<p>今年度は明らかな文章を書く基本である論理的思考の訓練を集中的にやってみたい。論理に関心のある学生諸君の参加を望む。</p>	<p>【講義計画】最終的に比較的長い論述文（ワープロ文にして6枚程度）を仕上げることを目標にする。</p>			
<p>日々の実践への参加態度や進捗度を考慮して判定する。</p>	<p>【参考文献】尾川正一『原稿の書き方』講談社現代新書</p>			
<p>【教科書】 山川偉也・清水真一『論理開眼』世界思想社</p>				

「コンピュータ利用Ⅰ」クラス一覧

クラス	担当者	ページ	クラス	担当者	ページ	クラス	担当者	ページ
01	島田 文彦	100	12	岩田 賢造	102	23	永田 淳次	103
02	島田 文彦	100	13	岩田 賢造	102	24	水口 薫	100
03	水口 薫	100	14	島田 文彦	100	25	水口 薫	104
04	毛利 進太郎	101	15	島田 文彦	100	26	水口 薫	100
05	毛利 進太郎	101	16	田村 昶三	103	27	水口 薫	104
06	巖 圭介	101	17	田村 昶三	103	28	水口 薫	100
07	巖 圭介	101	18	田村 昶三	103	29	水口 薫	104
08	岩田 賢造	102	19	田村 昶三	103	30	水口 薫	100
09	岩田 賢造	102	20	永田 淳次	103	31	水口 薫	104
10	岩田 賢造	102	21	永田 淳次	103	32	藤間 真	104
11	岩田 賢造	102	22	永田 淳次	103			

1. 実習的性格をもつ授業のため、1クラスの受講生は35名以内に制限します。従って応募者が定員を超えた場合、クラスへ参加できないことがあります。
2. どのクラスも出席を重視します。一定の成果をあげるために、持続的な訓練が欠かせないからです。
3. どのクラスも今までコンピュータに触れたことのない者を対象として、初歩的なコンピュータリテラシーの伝授を行うことを目的としています。
4. 授業を円滑に運営し、よりよい成果をあげるために、上記「クラス一覧」のとおりクラス分けをします。
5. 学則上、この科目は「共通自由科目（共通系）（2単位）」「社会福祉学科自由科目（2単位）」に位置づけられています。
6. 履修登録にあたっては以下のとおり事前に予備登録が必要です。

対象者：全学年・学部・学科生（96生以降）

定員：35名

日時：01E・SS・B・LE・LI生

4月7日（土）

（SW生は2回生から履修可）

9:10～13:00（昼休憩なし）

96～00E・SS・SW・B・LE・LI生

4月2日（月）

9:10～15:00（11:30～12:30 昼休憩）

場所：学務課窓口

クラス発表：4月12日（木） 聖アンデレ館下掲示板

申込方法：①「コンピュータ利用Ⅰ予備登録票」に必要事項を記入して提出してください。

② 希望するクラスを3つ以内記入してください。

ただし、同一クラスを記入することはできません。

③ 記入された時間割コードとクラス名が一致しない場合は、時間割コードにより処理するので注意してください。

<注意> 経営学部生については、「プログラミング論B」と「コンピュータ利用Ⅰ」の、いずれか一方しか履修・修得することができないので注意してください。

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用 I	01 02 14 15	9月集中 9月集中 前 期 後 期	2単位 2単位 2単位 2単位	島 田 文 彦
【講義概要・学習目標】	【講義計画】			
<p>近年、コンピュータは「読み（＝情報の取得）」「書き（＝情報の作成）」「そろばん（＝情報の加工）」のための道具としてだけでなく、コミュニケーションの手段としても注目が集められている。これにより、コンピュータは情報にかかわる際の手段としてより大きな役割を持つようになってきている。</p> <p>また、現在ではコンピュータの機能は多様化・高度化し、得られる情報も大型化・複雑化してきた。しかし、それに伴って、機能や情報に振り回される危険性も出てきたため、目的に合わせて機能を使いこなす必要が出てきた。</p> <p>本講義では、情報の取得、加工、発信を中心とした主なアプリケーション群の使い方を学ぶことと、その知識を用いてコンピュータ、アプリケーションの基本構造を理解し、本講義では触れないほかのアプリケーションについてもその道具としての使い方を直感的に理解し、十分その機能を使いこなせるような力をつけることを目的とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● コンピュータの概要と操作方法 : 共通した操作方法の理解 ● 文書の作成 : ワードプロを用いた文書の作成と修飾 ● 情報の加工 : 表計算ソフトを用いた情報の加工 ● コミュニケーション : 電子メールソフトによる情報の伝達 ● 情報の取得と伝達 : WWW の効率的な利用 			
【成績評価の方法】	【参考文献】			
講義内の課題、レポート、出席状況による評価	桃山学院大学計算機センター（編） 『桃山学院大学計算機センターユーザーズガイド』			
【教科書】				
なし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用 I	03 24 26 28 30	9月集中 前 期 前 期 前 期 前 期	2単位 2単位 2単位 2単位 2単位	水 口 薫
【講義概要・学習目標】	【講義計画】			
<p>近年、情報化社会の特殊な分野、専門性の強いものと思われていたコンピュータとその利用の機会の発達には著しいものがある。その必要性は学習・研究、ビジネスでも普通のものとなり、さらにネットワークの普及は、インターネットのように、瞬時に世界と情報のやりとり、コミュニケーションができるようになってきている。</p> <p>本講義では、コンピュータをまさにパーソナル・コンピュータ、個人の道具として使いこなす基礎知識とその操作を身につけると同時に、コンピュータ・リテラシー（操作だけでなくどのように活用するかという能力）を学習する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. パーソナル・コンピュータ（パソコン）の概要 2. コンピュータの基本操作とキーボード練習 3. 文章の作成（文字変換機能、ワープロソフト） 4. データの概念と処理（表計算、データベースソフト） 5. ネットワークと情報検索（インターネット） 6. ネットワークと情報交換（e-mail、データ転送） 7. コンピュータの可能性について 			
【成績評価の方法】	【参考文献】			
講義時の課題、レポート、出席により総合評価。				
【教科書】				
「桃山学院大学計算機センター・ユーザーズガイド」 桃山学院大学計算機センター（編） 受講者配布				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用I	04	7月集中	2単位	毛利 進太郎
	05	9月集中	2単位	
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>近年、コンピュータの発達により、単に計算を行うだけでなく様々な場面で活用されるようになってきている。またインターネットの発達により、様々な情報が電子的に流通し、また発信することが可能となってきている。そこではコンピュータの専門的知識だけではなく、道具として扱うことができる知識が必要となる。</p> <p>そこで本講義ではコンピュータの基本的な概念を学習し、加えてそれらを身近な道具として使い、またインターネット上の様々な情報を活用するための知識を演習を通して習得することを目的とする。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>以下の事柄について講義を行う予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータの基礎的概念 2. Windows98の操作 3. ワードプロによる文書の作成 4. インターネット（電子メール, WWW）の活用 5. 表計算の基本的操作 <p>各項目について数回の演習を主体とした講義を行う</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>随時課題を出し、出席状況と合わせて評価を行う。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>桃山学院大学計算機センター 「桃山学院大学計算機センター ユーザーズ・ガイド」</p>			
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用 I	06	前期	2単位	巖 圭 介
	07	後期	2単位	
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>コンピュータを使わずに仕事をすることがありえない時代になってきた。少し前ならコンピュータ使用の経験は特技としてアピールできたが、今では使えて当たり前。ワードプロを使いこなせないのは字が書けないのと同じ、電子メールを使えないのは電話の使い方を知らないのと同じである。</p> <p>一方で、年々ますます高性能になるコンピュータは、様々なことを可能にする魔法の箱でもある。インターネットも無限の可能性を秘めて日々成長している。このようなコンピュータの世界を知らずにいることは、人生の損失以外の何ものでもない。</p> <p>この授業では、<u>コンピュータに触ったことのない人</u>を対象に、コンピュータの基礎を学んでもらう。ワードプロ、表計算などビジネスで必要とされる基礎技術に加え、プレゼンテーション、ホームページの作成など、コンピュータの楽しさも味わってもらえる授業にしたい。</p> <p>コンピュータは道具である以上、頭で理解するだけではなく実際に使って身体で覚えてもらわねばならない。毎回出席することはもちろんだが、自由時間に自習する必要がある。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>下記の項目について実習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータのさわり方 ・キーボード入力 ・電子メール（AL-Mail） ・インターネット（Internet Explorer） ・ワードプロセッサ（MS Word） ・表計算（MS Excel） ・プレゼンテーション（Power Point） ・ホームページ入門 <p>ただし、進度によってはプレゼンテーションやホームページ入門は割愛することがあります。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席状況と期末の実技テストによる。欠席4回で除籍する。</p>	<p>[注意]</p> <p>この授業は基本的に完全初心者を対象としています。経験者が受講しても退屈なだけですし、経験者が入ることで、本来受講すべき初心者が受講できない事態も生じます。ある程度心得のある人は、なるべく他の授業を受けるようにして下さい。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>桃山学院大学計算機センター編「ユーザーズガイド」 （最初の授業で支給します）</p>				

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
コンピュータ利用 I	08 10 12	前期 前期 前期	2単位 2単位 2単位	岩田賢造
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>インターネットの普及に伴い、エレクトロニック・コマース（EC）など新しい情報技術（IT）を利用した、新しい事業やベンチャー企業が出現しています。日本は、情報化においてアメリカに大きく遅れをとっていますが、日本経済の再生には情報技術（IT）の効果的な利用が必須になります。授業では、コンピューターを利用する上で必要な、基本的な知識・操作方法について学んで頂くと共に、コンピューターをツールとして利用している企業の事例などについて概説します。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) パーソナル・コンピュータの概要 2) キーボード練習と基本操作 3) 電子メールの基本操作 4) インターネットの基本操作 5) ワードプロソフト（Word）の基本操作 6) 表計算ソフト（Excel）の基本操作 7) データ分析とグラフ表現の方法 8) プレゼンテーションソフト（Power Point）の基本操作 9) その他の情報活用技法と事例紹介 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席を重視します。出席日数60%以上と数回の課題提出による総合評価を行います。予習・復習などは時間外に行なっていただきます。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>桃山学院大学計算機センター編の「ユーザーズガイド」を利用します。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>必要に応じて指示致します。 ・教材は、主にプリントにて配布します。</p>				

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
コンピュータ利用 I	09 11 13	後期 後期 後期	2単位 2単位 2単位	岩田賢造
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>インターネットの普及に伴い、エレクトロニック・コマース（EC）など新しい情報技術（IT）を利用した、新しい事業やベンチャー企業が出現しています。日本は、情報化においてアメリカに大きく遅れをとっていますが、日本経済の再生には情報技術（IT）の効果的な利用が必須になります。授業では、コンピューターを利用する上で必要な、基本的な知識・操作方法について学んで頂くと共に、コンピューターをツールとして利用している企業の事例などについて概説します。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) パーソナル・コンピュータの概要 2) キーボード練習と基本操作 3) 電子メールの基本操作 4) インターネットの基本操作 5) ワードプロソフト（Word）の基本操作 6) 表計算ソフト（Excel）の基本操作 7) データ分析とグラフ表現の方法 8) プレゼンテーションソフト（Power Point）の基本操作 9) その他の情報活用技法と事例紹介 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席を重視します。出席日数60%以上と数回の課題提出による総合評価を行います。予習・復習などは時間外に行なっていただきます。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>桃山学院大学計算機センター編の「ユーザーズガイド」を利用します。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>必要に応じて指示致します。 ・教材は、主にプリントにて配布します。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用 I	16 17 18 19	前 期 後 期 前 期 後 期	2単位 2単位 2単位 2単位	田 村 昶 三
[講義概要・学習目標] <p>パソコンを使ったインターネット（電子メールとWWW）は常識になった。しかし、習熟するには、時間とエネルギーがかかる。それを効率的に勉強する者を対象とするパソコン基礎習得を目的とする。</p> <p>パソコンを道具として使いきるためには、避けて通れない「壁」がある。その壁を越えるための授業です。パソコンの「基礎の基礎」を勉強します。</p> <p>情報処理は大まかに(1)情報収集-(2)情報整理-(3)情報伝達-(4)情報保管蓄積-(5)情報検索の段階に分けられる。この中で(2)-(4)を中心にコミュニケーションの手段としてのパソコンの実習を通して基礎から勉強をする。</p> <p>ビジネスで文書・書類を中心に日本商工会議所パソコン検定試験（ワープロ・表計算）の受験を目標にします。検定合格レベルになるには相当な努力が要る。</p> <p>サポートしますので積極的に自習をしてください。</p> <p>パソコン基本操作から始めますが、パソコンの活用を授業の中心にします。教材はビジネスシーンで使われているものを取りあげます。その意味を考え、そのknowを勉強しましょう。</p>		[講義計画] <ol style="list-style-type: none"> Windowsの起動と終了。C&Pとは。 パソコンの基本操作（キータッチとマウス） ワープロソフト（文字入力、文書作成編集、美しい文書表現） 表計算（データとグラフ）（データ入力、表の作り方、グラフ作成） POWER POINTの使い方 インターネットの利用（WWW、電子メール、メールマガジン、） 情報保管蓄積、情報検索、データベース。 ファイリングとキャビネット 情報技術（IT）の活用するには ビジネス文書、ワークフローの活用 <p>ワープロソフトを使いきる。入力のスピードをペンで書くより速く入力できるようになる。</p> <p>表計算（EXCEL）の基本的な使い方がわかり基礎的な使い方はこなせる。</p> <p>電子メールをつかってコミュニケーションができる。</p> <p>インターネットのWWWで情報の収集と整理ができる。</p>		
[成績評価の方法] <p>出席が3分の2以上で、入力テスト（10分間）、電子メール送受信、毎週の理解度テスト提出、学期末試験により総合的に評価する。</p>		[参考文献] <p>桃山学院大学計算センター（編）『ユーザーズガイド』</p>		
[教科書] <p>教材は、毎週プリントで配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用 I	20 21 22 23	前 期 後 期 前 期 後 期	2単位 2単位 2単位 2単位	永 田 淳 次
[講義概要・学習目標] <p>コンピュータはその名前が示すとおり、計算が得意な機械として生まれてきた。このデータを高速で処理するという長所を活かし様々な情報を処理する道具として発展してきている。現在では、電子メールに代表されるようにコミュニケーションのための道具としても利用されている。</p> <p>本講義では、初心者がコンピュータやコンピュータネットワークの概要を理解するとともにその周辺の知識を深めることを目標としている。</p> <p>また、コンピュータの基本的な操作を習熟するために、実習を中心に講義を進める。</p>		[講義計画] <ol style="list-style-type: none"> コンピュータの概要と基本的な操作 メールによるコミュニケーション 日本語文書の作成 インターネットの基礎知識 プレゼンテーション 		
[成績評価の方法] <p>提出された課題の総合評価。出席は3分の2以上。</p>		[参考文献] <p>桃山学院大学計算機センター編『ユーザーズガイド』</p>		
[教科書] <p>必要に応じてプリントを配布</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用 I	25 27 29 31	後 期 後 期 後 期 後 期	2単位 2単位 2単位 2単位	水 口 薫
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>近年、情報化社会の特殊な分野、専門性の強いものと思われていたコンピュータとその利用の機会の発達には著しいものがある。その必要性は学習・研究、ビジネスでも普通のものとなり、さらにネットワークの普及は、インターネットのように、瞬時に世界と情報のやりとり、コミュニケーションができるようになってきている。</p> <p>本講義では、コンピュータをまさにパーソナル・コンピュータ、個人の道具として使いこなす基礎知識とその操作を身につけると同時に、コンピュータ・リテラシー（操作だけでなくどのように活用するかという能力）を学習する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. パーソナル・コンピュータ（パソコン）の概要 2. コンピュータの基本操作とキーボード練習 3. 文章の作成（文字変換機能、ワープロソフト） 4. データの概念と処理（表計算、データベースソフト） 5. ネットワークと情報検索（インターネット） 6. ネットワークと情報交換（e-mail、データ転送） 7. コンピュータの可能性について 			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
講義時の課題、レポート、出席により総合評価。				
[教科書]				
「桃山学院大学計算機センター・ユーザーズガイド」 桃山学院大学計算機センター（編） 受講者配布				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用 I	32	前 期	2単位	藤 間 真
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>「読み書きソロバン」とは、古来から言われている必要技能である。ところが、近年のコンピュータの高性能化、パーソナル化に伴い、コンピュータを操る能力もまた基本的な技能として要求されるようになってきた。</p> <p>本講義では、初心者を対象に、コンピュータを操る基礎の練習を行う。具体的には、タッチメソッド（キーボードに目を向けずに両手で入力する技能）を中心に、ワープロ、表計算、電子メールの基礎を練習する。</p> <p>本講義は、初心者に対するコンピュータリテラシーの伝授を目的としているので、コンピュータの経験を持つものは遠慮されたい。</p> <p>また、実習主体の講義であり、自習も必要となる。積極的に出席した上で、自由時間を活用して自習を進めないと単位修得は困難である。登録時には、このことに留意した上で登録を行うこと。</p>	<p>下記の項目について説明した上で、実習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パソコンについて ・タッチメソッドの修得 ・電子メール ・ワープロソフト ・表計算ソフト ・WWWブラウザソフト 			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
出席状況及び実習の成果物の提出により評価する。	進行状態に応じて指示する。			
[教科書]				
桃山学院大学計算機センター編 ユーザーズガイド				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用II		通期	4 単位	藤間 真
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>本講義の目的は、基本的なコンピュータ・リテラシーを修得しているものに対し、さらに高度なコンピュータ利用技術を伝授することにある。コンピュータ技術は、現在凄まじい勢いで進化し、変化している。よって本講義では、単純に現在何が出来るかを伝授するだけではなく、新しい技術に対応するための素養の伝授、計算機を使って自分は何をするのかということへの考察も行う。</p> <p>履修登録に際しては、下記の点を理解した上で登録されたい：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な計画は右欄の通りであるが、コンピュータの世界の変化と実習の進展の状態に応じて変更することもありうる。 ・計算機センターの施設を用いた実習が主体となる。 ・初心者に対するコンピュータリテラシーの伝授を目的とはしていない。 ・コンピューターの経験を持たないものにとってはハードな講義となる。 ・実習主体の講義であり、自習も必要となる。 ・基本的には連絡は電子メールで行う。 		<p>[講義計画]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを作ってみる。 ・プレゼンテーション・ソフト ・情報検索の基礎 ・unixの基礎 ・オブジェクト指向とJava 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>実習の提出物を中心に総合的に評価する。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>進行状況に応じて指示する。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>桑原恒夫著、3日で解るJava 例題学習方式（第2版） 共立出版 （後期のみ）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
有限数学		通期	4 単位	藤間 真
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>小中高と学んでくうちに数学が嫌いになった人は多いでしょう。無味乾燥で現実と無関係だという印象を持っている人も多いと思います。</p> <p>ところが、歴史的には、数学は、無味乾燥な知識体系として突然出現したのではなく、他人と理性的に合意に達するために、筋道立てて議論を進めることや定量的に物事を扱うことから発展した知識体系です。</p> <p>本講義の目的は、理性的に理解を進め、他人と合意に達するための道具としての数学に光を当てることにあります。言い換えると、丸暗記したものを吐き出すだけの数学を扱うことはしません。</p> <p>高校での数学の知識は要求しません。内容的には高校までの数学と重複することもあるでしょうが、まったく新しい切り口で扱います。</p> <p>連絡は掲示によって行いますから、常に掲示に留意してください。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>最初に、筋道をたてて考えたり表現たりすることの基礎付けである論理学の基礎を扱います。</p> <p>続いて現代数学の基本的道具ともいえる集合論の基礎を扱います。</p> <p>後期は「いくつかの数をまとめて扱うために普通の数の概念を拡張する」、という視点からベクトルと行列の基礎と、基礎だけで展開できる応用問題を扱います。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学年末試験の成績を中心に、平常成績を考慮して評価します。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>細井勉著、新曜社、「教養の数学」 大村平著、日科技連出版社、「論理と集合のはなし」 大村平著、日科技連出版社、「行列とベクトルのはなし」</p>		
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
解析学		通期	4 単位	藤間 真
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>小中高と学んでくうちに数学が嫌いになった人は多いでしょう。無味乾燥で現実と無関係だと印象を持っている人も多いと思います。</p> <p>ところが、歴史的には、数学は、無味乾燥な知識体系として突然出現したのではなく、他人と理性的に合意に達するために、筋道立てて議論を進めることや定量的に物事を扱うことから発展した知識体系です。</p> <p>本講義の目的は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ “変化” を抽象的に捉える枠組みである関数概念の伝授。 ・ 関数の性質を扱うための学問である微分積分学の初歩の伝授 ・ 数学を扱うソフトウェアの使用法に慣れること。 <p>という3点です。</p> <p>高校での数学の知識は要求しません。内容的には高校までの数学と重複することもあるでしょうが、まったく新しい切り口で扱います。</p> <p>連絡は掲示によって行いますから、常に掲示に留意してください。</p>		<p>[講義計画]</p> <p><前期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Macintoshの初歩 ・ Mathematicaの初歩 ・ 関数とは ・ 関数の実例 ・ 極限とは ・ 微分とは <p><後期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 微分とは (承前) ・ 積分とは ・ 応用 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学年末試験の成績を中心に、平常成績を考慮して評価します。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>一松 信著 初等関数概説-いろいろな関数- 森北出版 一松 信著 微分積分I はじめて学ぶ人に 丸善 井上 真著 見る微分積分学-Mathematicaによるイメージトレーニング- 東京電機大学出版局</p>		
<p>[教科書]</p> <p>開講時に指示します。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
総合講座 I (泉州の今昔 I)		前 期	2 単位	深 澤 徹
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>泉州の今昔 I は主に「歴史文化」篇である。桃山学院大学の立地する泉州地区に関して、その歴史と文化を概観する。なお総合講座であるので、毎回講師が変わり、それぞれのフィールドに基づいて講義がなされる。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>講義の最初に講師の顔ぶれと講義内容についての予定表を配布する。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>毎回出席を取るなのでその出席状況、及び学期末に試験を行い、総合的に評価する。</p>		<p>[参考文献]</p>		
<p>[教科書]</p> <p>特に定めない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
総合講座Ⅰ（泉州の今昔Ⅱ）		後 期	2 単位	深 澤 徹
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>泉州の今昔Ⅱは主に「産業社会」篇である。桃山学院大学の立地する泉州地区に関して、その産業と社会を概観する。なお総合講座であるので、毎回講師が変わり、それぞれのフィールドに基づいて講義がなされる。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>講義の最初に講師の顔ぶれと講義内容についての予定表を配布する。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>毎回出席を取るのその出席状況、及び学期末に試験を行い、総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特に定めない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者																
総合講座Ⅰ （ITの活用の実際）		前 期	2 単位	藤 間 真																
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>新聞・雑誌にURL(いわゆるホームページアドレス)が掲載されない日が無くなったことからわかるように、IT(Information Technology)は私たちの社会に深く根付いている。 本講義では、各業種で第一線でITを活用している現場の皆さんに来ていただいて、最先端の企業の活用状況話を話していただく。 また、余裕があればどのような人材がIT技術の現場で必要なのか、大学でどのような勉強をすることを企業側が望むのかについてもお問い合わせをお願いしている。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>1回目にオリエンテーション及び基礎知識の講義を行う。講義に関する詳細もそこで提示するので、出席した上で履修するかどうかを決められたい。 2回目以降に予定している内容は下記のとおりである。(順不同)</p> <table border="1" data-bbox="794 1485 1329 1742"> <thead> <tr> <th>招聘元企業</th> <th>予定題目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ダイキン工業</td> <td>「企業経営とIT」</td> </tr> <tr> <td>シャープ</td> <td>「SCMの実例」</td> </tr> <tr> <td>鐘淵化学工業</td> <td>「情報システム現場の問題と今後」</td> </tr> <tr> <td>ニフティ</td> <td>「インターネットの今後」</td> </tr> <tr> <td>ダイエー</td> <td>「流通業の世界のトレンド」</td> </tr> <tr> <td>武田薬品工業</td> <td>「情報システムの開発の方向で」</td> </tr> <tr> <td>大阪瓦斯</td> <td>「公共事業の情報システム」</td> </tr> </tbody> </table> <p>尚、本学からは経営学部の井上教授と藤間がそれぞれ講義を行う。</p>				招聘元企業	予定題目	ダイキン工業	「企業経営とIT」	シャープ	「SCMの実例」	鐘淵化学工業	「情報システム現場の問題と今後」	ニフティ	「インターネットの今後」	ダイエー	「流通業の世界のトレンド」	武田薬品工業	「情報システムの開発の方向で」	大阪瓦斯	「公共事業の情報システム」
招聘元企業	予定題目																			
ダイキン工業	「企業経営とIT」																			
シャープ	「SCMの実例」																			
鐘淵化学工業	「情報システム現場の問題と今後」																			
ニフティ	「インターネットの今後」																			
ダイエー	「流通業の世界のトレンド」																			
武田薬品工業	「情報システムの開発の方向で」																			
大阪瓦斯	「公共事業の情報システム」																			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>毎回の出席・受講態度及び最終レポートに基づき総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>講義中に指示する。</p>																			
<p>[教科書]</p>																				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
総合講座 I (スポーツと人物・人生 (1))		前 期	2 単位	松 浦 道 夫
[講義概要・学習目標] スポーツが大きな社会現象となって久しく、益ます多様化し発展しています。そこにはスポーツで成長し、スポーツにかけることによって夢を追い、生き、スポーツや社会に影響を与えた人びとがいます。スポーツは趣味や健康、教育や政治、職業や経済あるいは思想や文化の分野に関連してきました。そこでスポーツと人生、人物のテーマで、担当者の関心ある人物を取り上げて語ってもらいます。	[講義計画] 1 回目の講義で、ガイダンスをします。各担当者の紹介とそれぞれのテーマを知らせます。1 2～1 3 回で1 人1～2 回の担当予定です。			
[成績評価の方法] テーマごとのエッセイと最終講義日のテストで評価します。	[参考文献] 授業中にそれぞれ担当者が知らせます。			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
総合講座 I (スポーツと人物・人生 (2))		後 期	2 単位	松 浦 道 夫
[講義概要・学習目標] 前期と同様のねらいで、諸外国とくにアメリカやヨーロッパの人物とその人を取り巻く人びとを中心に語ってもらいます。その人物の生きた時代、文化、社会、その人の思想や行動、人生観などから、みなさんに生きるヒントが与えられればと願っています。	[講義計画] 1 回目の講義で、ガイダンスをします。各担当者の紹介とそれぞれのテーマを知らせます。1 2～1 3 回、1 人1～2 回の担当予定です。			
[成績評価の方法] テーマごとのエッセイと最終講義日のテストで評価します。	[参考文献] 授業中にそれぞれ担当者が知らせます。			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
総合講座Ⅱ (地域の歴史と文化財保存)		通 期	4 単位	佐賀 朝
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>歴史を学ぶことは楽しい。しかし、「歴史は暗記物」とか、「歴史は藤原氏や信長・秀吉のような偉人がつくるもの」とか、「文化財」というのは立派なお寺や神社にだけあるもの」といった誤解は根強い。</p> <p>そうではない。歴史は、私たちの日々の生活や身近なところで起こっている出来事の積み重ねのなかからつくられていくのだ。そうした身近な世界の歴史を、さまざまな材料を使って調べ、そこから社会の成り立ちや私たちの課題を見極めていくことが「歴史を学ぶ」ということなのだ。そして、そのようにして歴史を学ぶことのできる材料が、史料であり文化財なのだ。</p> <p>この講義では、①私たちが日々暮らし、働き、そして学んでいる地域には、こうした史料＝文化財がどのような形であるのか、②地域に残されたさまざまな史料＝文化財から、どのような地域の歴史が明らかになるのか、③地域の文化財を保存することには、どんな意味があるのか、について考えたい。</p> <p>具体的には、各分野で地域の歴史研究や史料の保存に携わっている専門家を招いてリレー講義の形で論じる。講義のなかで取り上げる具体的な地域としては、大学のある和泉地域をはじめ、近畿地方を中心とする。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>(前期) 文化財保存各論</p> <p>考古学における資料／埋蔵文化財の調査／埋蔵文化財の保存と破壊 中世荘園の世界／絵図から読みとる荘園世界／荘園景観の保存 阪神淡路大震災と文化財保存／住民参加の自治体史 地域文書館の活動／文化財保存運動の歴史</p> <p>ほか</p> <p>(後期) 和泉市の地域史と文化財</p> <p>池上・曾根遺跡／古墳の造営／古代窯業地域・陶邑(すえむら) 自治体史の編さんと史料保存／地域の歴史的総合調査研究 松尾寺地域の歴史／古文書からわかる江戸時代の村 聞き取りで再構成する地域の近代史／地域に残る戦争遺跡</p> <p>ほか</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席、各講師による小テスト・レポートなどを総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>講義のなかで各講師が随時、提示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>各講師がプリント等を配付する。</p>	<p>◆注意事項◆</p> <p>1999年度の総合講座Ⅰ地域の歴史と文化財保存1(前期)と同2(後期)のいずれかをすでに受講した者は、内容に重複があるため、原則として本講義を受講することは避けるように。</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
総合講座Ⅱ (多文化共生社会)		通 期	4 単位	遠山 淳
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>20世紀は国家という概念の普及とともに、民族の生存をかけて激動した。民族の統合と分化の世紀でもあった。その鍵概念は民族と文化。</p> <p>本講座では、世界に存在する多文化社会を知り、現在の日本が、例外的に単一文化的要素が極めて濃い、むしろ少数派国家であることを学ぶ。また、国家の形成と民族関係、文化の形成についても講じるが、世界の中から、いくつかの国家・社会を選び、それらの地域における多民族・多文化と共生の現状と展望について考察する。21世紀における多文化共生社会の有り様を、日本と世界に求め、また、民族紛争と調停機関である国連や国際機構の機能と展望についても講じる。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに：現代世界の現状と展望(順不同) 2. 国連および国際機構の機能と展望 3. 多文化社会の現状～各論研究：英国の場合 4. 各論研究：アメリカ合衆国の場合 5. 各論研究：カナダの場合 6. 各論研究：オーストラリアの場合 7. 各論研究：中南米の場合 8. 各論研究：中国の場合 9. 各論研究：台湾の場合 10. 多文化共生社会への道：日本の場合～はじめに 11. 各論研究：定住外国人問題と地方参政権運動 12. 各論研究：外国人教員任用運動と国公立大学教員に関する実態調査 13. まとめ：多文化共生社会への展望 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>各講義後に行う「まとめ」、「クイズ」、または学期末・学年末のレポートにより総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>授業中に紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>徐龍達・遠山淳・橋内武共編著『多文化共生社会への展望』日本評論社、2000</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本事情 (外国人留学生用)		通 期	4 単位	三 宅 ひとみ
【講義概要・学習目標】 先入観や偏見に捕らわれず、そして既成概念に捕らわれな いで日本と世界を見つめ直す。日本だけでなく、他をも同時 に見ることによって(比較文化の観点で)現在の日本事情・ 日本人の意識を探る。意識調査・資料読解・討論・ゲーム などを通して“自分で気付く”日本を見つけよう。	【講義計画】			
【成績評価の方法】 課題作文等提出物、授業への出席・参加度・態度	【参考文献】			
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
言語学		通 期	4 単位	大 原 始 子
【講義概要・学習目標】 言語は、個人の読み書きや会話能力の対象として捉えがちであるが、一方で 言語のあり様を客観的に理解していくために、世界の言語の系統、個別言語の 音の体系、文の構造、ことばの変化や機能などを明らかにする様々な取り組み がなされている。これらの研究ををまとめて言語学という。 本講義は、基礎的な知識の習得を目的として、言語学の諸分野の概説と主な 研究業績の紹介をしていく。 学生の多くにとっては、これまで、接することがなかった学問領域なので、 専門用語に慣れるように、講義の間に理解しておいてほしい。受講生は、外国 語に対する関心や、第一、第二外国語のある程度の知識を持つこと(辞書に出 てくる発音記号くらいは理解しておくこと)が望まれる。	【講義計画】 <前期> 言語と文化 世界の言語の位置づけ 言語接触 借用語 <後期> アクセントとイントネーション 地域差、世代差、男女差、階級差とヴァリエーション 文の構造、語の構造 会話の構造とコミュニケーション 公用語、国語、共通語、標準語			
【成績評価の方法】 前期、後期終了時の論述試験と、講義中に課すレポートの総合評価をする。	【参考文献】 その都度、プリントして配布または指示する。			
【教科書】 『入門ことばの科学』(大修館書店)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論理学		通 期	4 単位	山 川 偉 也
〔講義概要・学習目標〕 「世界市民」養成のための教養の論理を身につけてもらう。				〔講義計画〕 テキストに沿って授業を進める。
〔成績評価の方法〕 毎回の授業がテストの積み重ねである。				〔参考文献〕
〔教科書〕 山川偉也・清水真一『論理開眼』世界思想社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
倫理学		通 期	4 単位	木 下 昌 巳
〔講義概要・学習目標〕 「生命倫理」をテーマとして講義をおこなう。 「生命倫理」とは、安楽死、臓器移植、人口妊娠中絶、クローン人間の作成などにかかわるような、従来の医療行為のなかでは考える必要のなかった諸問題を倫理的に究明することを目的とする倫理学の一分野である。近年の医学の技術の進歩は、人間の死とは脳の死なのか心臓の死なのか？、自分の遺体についての決定権をもつのは自分なのか、家族なのか？、クローン人間の製造は許されるのか？などといった、これまではなかったような新たな種類の問いをわれわれに突き付けることになった。これらの問題に答えようとするとき、われわれは、これまで日常生活のなかで疑わずにいたさまざまな価値の意味をあらためて問われることになる。本講義では、これらの問題の複雑な論点を整理し、解決の方向性を探っていくことにする。				〔講義計画〕 前期は生命倫理固有の問題に焦点を絞り、インフォーム・コンセント、臓器移植、脳死、クローン人間といったテーマを個別に論じていく。後期では、前期の内容を前提としてその背後にある倫理学の根源的な問題を概観・検討する予定である。
〔成績評価の方法〕 学期末試験 80点 授業中に提出するエッセイ（数回実施する予定） 20点 以上の100点満点で評価する。				〔参考文献〕 加藤尚武『脳死・クローン・遺伝子治療——バイオエシックスの練習問題』（PHP新書）
〔教科書〕 なし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
現代思想		通 期	4 単位	岩 津 洋 二
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>私たちは人生の途上でさまざまな恐怖に遭遇する。地震を怖がり、お化けを怖がり、友達から嫌われるのが怖がる。すこしふりかえてみると、じつにさまざまな恐怖が私たちの生活につきまとい、恐怖ゆえに、私たちはしたいことを思い止まり、したくないことをあえておこなっている。しかし、私たちの行動の決定にかくも深くかかわっている恐怖がどのようなものであるかについて正しく認識している人は少ない。</p> <p>この講義は、哲学のみならず、心理学・生理学・民族学・民俗学などの視点から、恐怖を解明し、その作業をとおして、恐怖にとらわれている自分を見つめなおし、恐怖から自分を解放し、より自由になるための手がかりをさぐるという実践的な課題を追求する。恐怖とはなにかを明らかにすることによって、世界と自分自身を再発見する試みでもある。</p>		<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. なぜ恐怖を問題とするのか 2. 恐怖の諸相－恐怖の分類 3. 近代社会における恐怖のとらえ方 4. 恐怖の心理＝生理学 5. 恐怖の過剰性 6. 対人恐怖症と日本文化 7. 恐怖としての和合 8. 日本の伝統的恐怖対象 9. 未開の恐怖と近代の恐怖 10. 恐怖の利用 11. 集合的恐怖 12. 恐怖の愛好 13. 恐怖への対処の仕方 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>何回かのレポートと学年末の試験による。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>授業中に指示する。</p>		
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会思想		通 期	4 単位	坂 昌 樹
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>社会的存在である人間は、少しでも住みよい社会を実現するためにさまざまな考えを提案してきました。なかでもヨーロッパ近代には、既存の体制を転覆する革命的な思想から逆にそれを正当化する保守的思想まで、歴史的状況に応じて諸説が論じられています。これらの諸思想は、現代のわれわれの社会のあり方をも規定している点で重要です。この講義ではそれらの思想の代表的なものを、それぞれの社会状況との関連でかいま見ようと思います。</p> <p>学習の重点は、日本人の考え方との違いを確認することにあります。思想といえは抽象的で難解な内容になりがちですが、なるべくわかりやすく、ゆっくり進めていきたいと思っています。理解を深めるために、コロキウム（質疑応答）をおこなうこともあります。</p>		<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> I. 導入：社会思想とはなにか II. ヨーロッパ思想の根元：形而上学、キリスト教的世界観 III. 個人主義の確立：キリスト教による個人の析出、マキアヴェッリ、ルター IV. 近代国家の構想：ホブズ、ロック、ルソー、(カント) V. 市民社会の秩序：スミス、(J.S. ミル) VI. (近代市民社会批判：マルクス、女性解放思想) <p>ただし講義の進捗状況によっては、上記() づきの思想家や思想を省略することがあります。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学期末試験を中心に、授業中におこなう質疑応答もふくめて、総合的に評価します。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>必要があれば、講義中に指示します。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>指定しません。重要なテキストは、担当教員がプリントとして配布します。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本近代思想史		通 期	4 単位	三 宅 正 彦
[講義概要・学習目標] 通常、近代とは明治～第二次大戦中まで、現代とは戦後～現在までを指す。この講義では日本近代の思想を日本の歴史的な位置付け、家、天皇制、アジア観などをポイントとして、問題史的に追究する。		[講義計画] 1. 日本の歴史的な位置付け(丸山真男『日本政治思想史研究』など) 2. 家(柳田国男『先祖の話』など) 3. 天皇制(美濃部達吉『憲法撮要』、上杉慎吉『憲法述義』など) 4. アジア観(津田左右吉『シナ思想と日本』など)		
[成績評価の方法] 期末試験。(講義に欠かさず出席して内容の理解に努めていれば単位取得は容易。欠席が多ければ困難)		[参考文献]		
[教科書] 資料を配布する。ただし、配布時には出席している人に1回限りで交付する。そのとき欠席した人に対する追加配布や持参することを忘れた人に対する再配布は行わない。毎時、資料を参照しなければ講義の理解は困難になる。				

<社会福祉学科生対象>

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
心理学	0 1	通 期	4単位	冷 水 啓 子
[講義概要・学習目標] 1 心理学の概要を理解させる。 2 乳幼児期・児童期・青年期・老年期等人間の発達段階のそれぞれの時期に特有な身体的、心理的特徴について理解させる。 3 心理学理論による人間理解とその技法の基礎について理解させる。 4 心理的援助技法の概要について理解させる。 5 社会福祉士に必要な内容について理解させるよう留意する。		[講義計画] 1 人間の心理学的理解 1) 欲求・動機づけと行動 2) 感情・情動 3) 感覚・知覚・認知 4) 学習・記憶・思考 5) 知能・創造性 6) 人格 7) 適応と適応異常 2 人間の成長・発達と心理 3 人間理解のための心理学理論と技法 1) 基礎理論 ①精神分析 ②行動分析 2) 測定と診断 ①発達 ②知能 ③性格 4 心理的援助技法の概要 1) 心理療法(個別面接法・集団面接法) 2) 家族心理療法 3) 行動療法		
[成績評価の方法] 学年末に試験を実施する。必要に応じて、簡単な実験・調査への参加やレポート提出などを求める。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。		[参考文献] 市川伸一(編)『心理測定法への招待』(サイエンス社) 松原達哉(編)『最新 心理テスト法入門』(日本文化科学社) 中島義明(編)『メディアに学ぶ心理学』(有斐閣) 大村彰道(編)『教育心理学Ⅰ—発達と学習指導の心理学—』(東京大学出版会) 下山晴彦(編)『教育心理学Ⅱ—発達と臨床援助の心理学—』(東京大学出版会) 他		
[教科書] 福祉士養成講座編集委員会(編)『心理学』(中央法規)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
心理学	02	通 期	4 単位	伊 藤 高 章
【講義概要・学習目標】 Psychology という語は、語源的には魂（たましい）もしくは霊に関する学問という意味である。そして、人類の歴史においてこの魂や霊のことがらは、永く宗教が扱ってきた。本講義では前期において、宗教と心理学との関係を明らかにしてゆくと共に、近代心理学のもつ人間観の特徴を理解することを目指す。その際特に、フロイトとユングが展開した無意識に関する理論に注目する。後期においては、他者の魂の声に耳を傾ける姿勢を養う意味で、カウンセリング及び「カウンセリング・マインド」について学ぶ。 これからの社会に必要とされる「ケア」の人間関係の基礎	【講義計画】 以下の内容を含む ＜前期＞ 諸宗教における心のケア フロイトの人間観 ユングの人間観 エリクソンの人間観 近代心理学の展開 ＜後期＞ カウンセリングの人間観 カウンセリング理論の前提 カウンセリングの理論 非指示的療法 ゲシュタルト療法 論理情動療法			
【成績評価の方法】 出席を重視する。 教科書のほかに3～4冊分のブック・レポートを課す。 学年末試験。	【参考文献】 随時指示する			
【教科書】 山中康裕（1996）『臨床ユング心理学入門』（PHP新書 004） 小此木啓吾（1989）『フロイト』（講談社学術文庫 860） 平木典子（1989）『カウンセリングの話 増補』（朝日選書 375）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
心理学	03 04	通 期 通 期	4 単位 4 単位	伊 藤 正 人
【講義概要・学習目標】 現代の心理学では、実験や観察という客観的方法により、ヒトや動物の行うあらゆる行動を組織的に研究する。心理学の課題は、このような行動に影響する様々な要因を探索し、行動の原理（法則）を定式化し、私たちの日常生活における様々な行動を説明（予測と制御）することである。近代心理学の出発点は、ドイツの心理学者ヴント（Wundt）がライプツヒヒ大学に世界で最初の心理学実験室を創設した1879年にさかのぼる。現在までおよそ120年の現代心理学の歴史は、「こころ」という多義的で曖昧な対象をどの様に捉えるかということに腐心してきた足跡であるといえる。このような先達の努力を振り返ることは、真の意味で心理学の理解を深めることになる。 本講義は、心理学の歴史をたどりながら、現代心理学の課題を理解するための枠組みを提示する。また、教室で心理学実験を行い、受講者が被験者となることで、心理学のより深い理解を促進させる。	【講義計画】 前期では、まず心理学の歴史を振り返り、現代心理学の課題を提示する。続いて、心理学の各領域の課題を網羅的に眺めてみる。取り上げる領域は、行動・学習、動機づけ・情動、知覚・認知、パーソナリティである。 後期では、心理学の領域のうち、学習の問題に焦点を当て、「学習の原理」が私たちの日常生活の様々な行動にどの様に適用できるのかを考える。また、名作映画のなかに現れる心理学の問題を取り上げて題材としたい。取り上げる映画は、「時計じかけのオレンジ」（1971年）、「オズの魔法使い」（1939年）、「羊たちの沈黙」（1991年）、「2001年宇宙の旅」（1968年）などである。各自レンタルビデオなどで一度は見ておくこと。			
【成績評価の方法】 成績評価は、講義中に行う数回の小テストと学年末試験による。	【参考文献】 心理学事典 平凡社 心理学辞典 有斐閣 現代基礎心理学全12巻 東京大学出版会 行動心理ハンドブック 培風館 心理学双書全10巻 有斐閣 「メイザーの学習と行動」二瓶社			
【教科書】 糸魚川・春木編「心理学の基礎」有斐閣（前期） 佐藤方哉「行動理論への招待」大修館（後期）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者																														
心理学	05	通 期	4単位	林 陸 雄																														
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>個々の人間について、その特性を的確に把握し理解することは困難である。しかし、現実社会が多くの多様な価値観と生き方をもつ人々によって構成され、それらの人々の相互作用によって営まれている以上、人々にとって的確な人間理解能力は必要不可欠といえよう。</p> <p>個々の人間理解の前段として、一般的にいつて人間とは何か、人間はどのように行動するのかについて、現代心理学の立場から概観する。</p> <p>テキストを中心に展開するが、時には、ビデオ視聴または指定図書の閲読によって人間理解を深める工夫をしたい。小レポートはそれらと関連して課すので、出席常ならざる履修生は、情報入手ならびに対応で苦慮することになるであろう。要注意である。</p>	<p>[講義計画]</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 心理学とは1</td> <td>16. 社会的認知の仕組み1</td> </tr> <tr> <td>2. 心理学とは2</td> <td>17. 社会的認知の仕組み2</td> </tr> <tr> <td>3. 知覚の仕組み1</td> <td>18. 社会的認知の仕組み3</td> </tr> <tr> <td>4. 知覚の仕組み2</td> <td>19. 感情の働き</td> </tr> <tr> <td>5. 知覚の仕組み3</td> <td>20. 動機づけとは</td> </tr> <tr> <td>6. 記憶の仕組み1</td> <td>21. パーソナリティとは1</td> </tr> <tr> <td>7. 記憶の仕組み2</td> <td>22. パーソナリティとは2</td> </tr> <tr> <td>8. 記憶の仕組み3</td> <td>23. パーソナリティとは3</td> </tr> <tr> <td>9. 思考の仕組み1</td> <td>24. 発達と成長1</td> </tr> <tr> <td>10. 思考の仕組み2</td> <td>25. 発達と成長2</td> </tr> <tr> <td>11. 思考の仕組み3</td> <td>26. 発達と成長3</td> </tr> <tr> <td>12. 前期の補足1</td> <td>27. 後期の補足1</td> </tr> <tr> <td>13. 前期の補足2</td> <td>28. 後期の補足2</td> </tr> <tr> <td>14. 前期のまとめ1</td> <td>29. 後期のまとめ1</td> </tr> <tr> <td>15. 前期のまとめ2</td> <td>30. 後期のまとめ2</td> </tr> </table>				1. 心理学とは1	16. 社会的認知の仕組み1	2. 心理学とは2	17. 社会的認知の仕組み2	3. 知覚の仕組み1	18. 社会的認知の仕組み3	4. 知覚の仕組み2	19. 感情の働き	5. 知覚の仕組み3	20. 動機づけとは	6. 記憶の仕組み1	21. パーソナリティとは1	7. 記憶の仕組み2	22. パーソナリティとは2	8. 記憶の仕組み3	23. パーソナリティとは3	9. 思考の仕組み1	24. 発達と成長1	10. 思考の仕組み2	25. 発達と成長2	11. 思考の仕組み3	26. 発達と成長3	12. 前期の補足1	27. 後期の補足1	13. 前期の補足2	28. 後期の補足2	14. 前期のまとめ1	29. 後期のまとめ1	15. 前期のまとめ2	30. 後期のまとめ2
1. 心理学とは1	16. 社会的認知の仕組み1																																	
2. 心理学とは2	17. 社会的認知の仕組み2																																	
3. 知覚の仕組み1	18. 社会的認知の仕組み3																																	
4. 知覚の仕組み2	19. 感情の働き																																	
5. 知覚の仕組み3	20. 動機づけとは																																	
6. 記憶の仕組み1	21. パーソナリティとは1																																	
7. 記憶の仕組み2	22. パーソナリティとは2																																	
8. 記憶の仕組み3	23. パーソナリティとは3																																	
9. 思考の仕組み1	24. 発達と成長1																																	
10. 思考の仕組み2	25. 発達と成長2																																	
11. 思考の仕組み3	26. 発達と成長3																																	
12. 前期の補足1	27. 後期の補足1																																	
13. 前期の補足2	28. 後期の補足2																																	
14. 前期のまとめ1	29. 後期のまとめ1																																	
15. 前期のまとめ2	30. 後期のまとめ2																																	
<p>[成績評価の方法]</p> <p>2/3以上の出席、数回の章単位のレポート、期末考査の結果を総合して行う。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>授業中に適宜紹介する。</p>																																	
<p>[教科書]</p> <p>北尾倫彦、中島実、井上毅、石王教子 共著 『グラフィック 心理学』 サイエンス社</p>																																		

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
キリスト教概論		通 期	4単位	滝 澤 武 人
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>キリスト教の根本經典である『聖書』、特に「新約聖書」をできるだけ多く読むことがこの講義の目標である。それを通して、今日のキリスト教や教会についても論ずることになる。もちろん、大学という場においては、理性的・学問的な研究成果を土台とすることになるので、「信仰」の有無などには全く関係なく受講できる。教養としてぜひ『聖書』に親しんでもらいたい。</p> <p>いわゆる『聖書』には「旧約聖書」（39巻）と「新約聖書」（27巻）合計66巻のさまざまな時代のさまざまな文書が含まれている。それらは古代ユダヤ民族が残した人類全体にとって重要な知的遺産・世界の古典中の古典であり、今日においてもなお文学・美術・歴史・思想・宗教などに新鮮な光を投げかけている。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>今年度は主として「パウロ書簡」を読み進める予定である。人数にもよるが、皆でテキストを読みあい感想を纏めてもらう。真面目な学生諸君のねばり強い努力に期待している。なお、教科書として指定した『新約聖書』は必ず毎時間持参すること。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>試験・レポート・出席・受講姿勢などを総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>AERA Mook 『新約聖書がわかる。』（朝日新聞社）</p>			
<p>[教科書]</p> <p>新共同訳『新約聖書』（日本聖書協会） （できれば旧約聖書をも含んだものを準備し、授業時には必ず毎時間持参すること。）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
キリスト教史		通 期	4 単位	伊 藤 高 章
[講義概要・学習目標] <p>ヨーロッパ宗教改革に対するカトリック側の反宗教改革運動の中で成立したイエズス会、及びイエズス会士フランシスコ・ザビエルの活動を手がかりに、近世のキリスト教の歴史を広く学ぶ。またこの時代の西ヨーロッパの国際関係、海外貿易、帝国主義的な進出にも言及し、教会の側からみた教会の歴史ではなく、人類の歴史におけるキリスト教の動きに注目する。 キリスト教とアジア文化、特に日本の文化との接触の問題もとりあげる。</p>	[講義計画]			
[成績評価の方法] 前期提出のブックレポート 2～3本 夏期休暇中に作成する小論文 後期授業における研究発表	[参考文献] フランシスコ・デ・ザビエル 『聖フランシスコ・デ・ザビエル書翰抄』 上・下、 (岩波文庫 青 818-1・2) イグナチオ・デ・ロヨラ 『靈操』 (岩波文庫 青 820-1) 『ある巡礼者の物語』 (岩波文庫 青 820-2)			
[教科書] フィリップ・レクリヴァン『イエズス会』（「知の再発見」双書 53） 創元社 1996 年 遠藤周作『沈黙』				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
聖書研究		通 期	4 単位	滝 澤 武 人
[講義概要・学習目標] <p>キリスト教の根本経典である『聖書』、特に「旧約聖書」をできるだけ多く読むことがこの講義の目標である。もちろん、大学という場においては、理性的・学問的な研究成果を土台とすることになるので、「信仰」の有無などは全く関係なく受講できる。教養としてぜひ『聖書』に親しんでもらいたい。 いわゆる『聖書』には「旧約聖書」（39巻）と「新約聖書」（27巻）合計66巻のさまざまな時代のさまざまな文書が含まれている。それらは古代ユダヤ民族が残した人類全体にとって重要な知的遺産・世界の古典中の古典であり、今日においてもなお文学・美術・歴史・思想・宗教などに新鮮な光を投げかけている。</p>	[講義計画] 前期に「創世記」「出エジプト記」、後期に「雅歌」「ヨブ記」などを主として読み進める予定である。人数にもよるが、皆でテキストを読みあい感想を纏めてもらう。真面目な学生諸君のねばり強い努力に期待している。			
[成績評価の方法] 試験・レポート・出席・受講姿勢などを総合的に評価する。	[参考文献] AERA Mook 『旧約聖書がわかる。』（朝日新聞社）			
[教科書] 新共同訳『聖書』（日本聖書協会） （旧約聖書を含んだものを準備し、 授業時には必ず毎時間持参すること。）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本思想史		通 期	4 単位	三 宅 正 彦
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>日本人に大きな影響を与えた前近代の思想の歴史的展開を追う。原典の読解にモトづいて内容の理解を深める。</p>				<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 神道(『古事記』など) 2. 仏教(『浄土三部経』『入宗綱要』『諸宗仏像図彙』など) 3. キリスト教(『どっちなキリシタン』など) 4. 儒教(『太極図』『太極図説』など) 5. 陰陽道(『大雑書』など)
<p>[成績評価の方法]</p> <p>期末試験。(講義に欠かさず出席して内容の理解に努めていれば単位取得は容易。欠席が多ければ困難)</p>				<p>[参考文献]</p>
<p>[教科書]</p> <p>資料を西配布する。ただし、西配布時に出席している人に1回限り交付する。そのとき欠席した人に対する追加西配布や持参することを忘れた人に対する再西配布は行わない。毎時資料を参照しなければ講義の理解は困難になる。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
アジア思想史		通期	4 単位	リン 林 コウサク 宏作
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>四千年にも及ぶ中国思想史を一年間二十数回の講義では到底延べ尽くすことはできない。本年度は春秋時代から秦の天下統一まで、主に諸子百家の思想を明らかにし、それぞれの代表的な思想家について述べたい。</p>				<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中国思想史の意義ならびにその分期について 2. 諸子百家の時代 3. 孔子 4. 孟子 5. 荀子 6. 墨子 7. 老子 8. 荘子 9. 韓非子
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期末及び後期末のテスト、レポート、出席状況に基づいて総合的に評価する。</p>				<p>[参考文献]</p> <p>狩野直喜 『中国哲学史』 岩波書店 武内義雄 『中国思想史』 岩波書店 小島祐馬 『中国思想史』 創文社 森三樹三郎 『中国思想史』 第三文明社</p>
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
西洋思想史		通 期	4 単位	山 川 偉 也
「哲学の根本問題」と題して、以下の西洋思想史上の十人の思想家を取り上げる予定。アナクシマンドロス、パルメニデス、プラトン、アリストテレス、アウグスチヌス、カント、ベルクソン、フッサール、ウイトゲンシュタイン、ハイデッガー。				前期はアナクシマンドロス、パルメニデス、プラトン、アリストテレス、アウグスチヌスを、後期はカント、ベルクソン、フッサール、ウイトゲンシュタイン、ハイデッガーを論ずる予定。
[成績評価の方法] 出席態度、前・後期試験の結果を総合的に判定して決定する。		[参考文献]		
[教科書] 山川偉也『古代ギリシアの思想』（講談社学術文庫）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学思想史		通期	4 単位	松永 俊男
[講義概要・学習目標] 科学とキリスト教の関係について講義する。 17世紀に成立した西洋近代科学は、神に由来する自然の秩序を見いだすことを目的にしていた。科学研究はキリスト教に奉仕するものだった。ところが、19世紀に科学と宗教の調和が崩れ、科学は宗教から分離していった。講義では、ガリレオ、ニュートン、あるいはダーウィンらの科学がキリスト教信仰と結びついていたことを明らかにし、それにもかかわらず、なぜ科学と宗教が対立すると思われるのかについて考察する。		[講義計画] 前期 1. 宇宙観の変遷 2. コペルニクスの信仰と科学 3. ガリレオの信仰と科学 4. ニュートンの信仰と科学 5. イギリス自然神学の成立 後期 1. ビクトリア朝の信仰と科学 2. 化石の変遷の解釈と教会 3. 進化論とキリスト教 4. 科学と宗教の闘争史観の成立 5. 科学と宗教の闘争史観の否定		
[成績評価の方法] 原則として、毎回の授業の最後に小テストを実施する。これが一定の水準に達しなければ、出席率が良くても不合格とする。また、最初の授業を含めて、前期に5回以上欠席した者は、理由の如何を問わず除籍する。		[参考文献] 松永俊男（著）『ダーウィンの時代－科学と宗教』（名古屋大学出版会）		
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
キリスト教と英米文学		通 期	4 単位	谷 本 泰 三
[講義概要・学習目標] 神と悪魔、信仰と疑惑、希望と絶望、従順と叛逆、このような対極の間でバランスをとろうとする人間を描いた英米文学作品を取り上げる。その狙いは、英米文学史の底流となっているキリスト教思想や反キリスト教思想を検証して、キリスト教への理解を深め、優れた文学作品が思想に命を与える様子を見ることにある。作品から喜びや、恐怖、そして感動を体験して欲しい。講義は常に聖書に言及しつつ原作品に密着して行う。指示された作品の原典を予習しておくことが必須となる。講義の詳細なアウトライン（学習ガイド付き）を用意しておくのでそれに従って予習するように。	[講義計画] 1 序論 講義開始に当たって 2 E.E. Cummings "Buffalo Bill's defunct" 死を超えるイエス 3-5 Andrew Marvell "To his Coy Mistress" 生への空しい欲望 Emily Dickinson "How happy is the little Stone" Marvellの語り手の悩みへの答 6-8 Nathaniel Hawthorne "The Minister's Black Veil" 人間は罪の存在 9 John Milton "On His Blindness" 絶望から希望への信仰 10 William Wordsworth "We Are Seven" 永遠の命と無垢 11 Robert Frost "Stopping by Woods on a Snowy Evening" 現実と超現実の接点 12 George Herbert "Love" 罪を赦すキリスト/聖餐式の意味 Litany 聖餐式での連続 13-21 William Faulkner "That Evening Sun" イエスの再臨/終末論			
[成績評価の方法] 前期 小論文 後期 期末試験 年間を通じて平素の努力点	[参考文献]			
[教科書] 聖書 谷本泰三（著）「学習ガイド・講義アウトライン」				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本古典文学		通 期	4 単位	安 田 真 一
[講義概要・学習目標] 『源氏物語』葵巻を読んでいく。 葵巻は、六条御息所の生霊、賀茂祭での車争い、夕霧の誕生と葵上の死去、光源氏と紫上との新枕など話題は多い。それらを読み進めつつ、様々な角度から解釈し、論じてみたい。 その上でこだわりたいのは、〈読む〉ことの方法である。物語の想像力・創造力は、他のテキストとの関連から生まれるものである。そして、常にそれを読む現代の私たちと関わっている。その点を意識して読解していく。古典のおもしろさ、そして、テキストを〈読む〉技術を述べていきたい。	[講義計画] 葵巻の概要に触れつつ、古典解釈の方法論およびテキストの解釈のあり方について触れていく。 葵巻の内容に沿って順次それぞれの問題点と話題に関して講義していく。ただし、他の『源氏物語』の巻とも関連させて読み進めていく。			
[成績評価の方法] レポートによる。	[参考文献] 前田愛『増補文学テキスト入門』ちくま文庫 その他は、講義中に指示する。			
[教科書] 玉上琢彌訳注『源氏物語』第二巻（末摘花～花散里）角川文庫				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本近代文学		通 期	4 単位	佐 藤 慶 子
[講義概要・学習目標] 日本の明治から大正、昭和、平成へという、近代、現代文学の流れを追いかけることで、我々が何を求めて生きてきたのかを、人間を理解するために苦悩と挫折を繰り返した、各時代の作家の作品を通して、探りたい。	[講義計画] 講義形式で、資料をもとに、解説を加えてゆく。意見を求めるので、意欲的に発表してほしい。			
[成績評価の方法] 毎時間、初めの15分間程度で、その日の資料に目を通させ、自分なりに理解してみるレポートを書かせ、平常点とする。出席を重視し、前・後期末試験に、授業中の態度を加算する。	[参考文献] 必要に応じて紹介する。			
[教科書] 資料をコピーして配付する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
西洋文学		通 期	4 単位	本 多 雄 一 郎
[講義概要・学習目標] 文学作品は、作家の手を打たれるやいなや、読者にとってその存在は無きに等しい。近年の文学理論においては、読者が作品の意味を産み出すと考えられ、作品と読者との関係が重視されている。皆さんは、まさにその読者という立場にあるわけであり、西洋文学を読み解いていく上で必要な手がかりとなる基礎的知識を紹介するのが目標である。そのために、西洋文学を代表する個別の作品(フランス文学を主とする)に触れつつ、そこから提示される問題や思想について論じていく。	[講義計画] 前・後期を通じて、西洋文学の思潮の変遷、社会的背景や個別の作品が提示する問題について資料を通して検討・解説していく。			
[成績評価の方法] 授業への参加度とレポートで評価する。	[参考文献] 適時指示する。			
[教科書] 講義の際に資料を配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
比較文化論		通 期	4 単位	村 上 昌 孝
<p>[講義概要・学習目標] ある文化圏で生み出された文物が他の文化圏に伝えられる場合、それぞれの文化にふさわしいものに作り替えられるのが常である。異文化の受容と変形の問題を考える材料として、インド説話を取り上げる。インド説話は、仏教説話の漢訳を通じて日本に伝えられた。その一方、インドで制作された物語集がイスラム圏で翻訳され、ヨーロッパに伝えられることにより、これらの地域の説話・伝承に大きな影響を与えている。この講義では、インド説話が東西に伝播する際、どのような改変がなされたのかを学習することを目標とする。</p>	<p>[講義計画] インド説話に関する概説の後、まず、東方への伝播の具体例を検討していく。インド説話が仏教を説き明かすための例え話として取り入れられた際にも、仏教の教理に即した改変が施されているのはもちろんのことだが、これが中国・日本へと伝承されていく過程で、それぞれの文化に適合するように、更なる改変が施された。同系統の説話の、インド・中国・日本での伝承の違いを比較する。ついで、西方への伝播に関しても同様の検討を行うこととする。</p>			
<p>[成績評価の方法] 平常点とレポートによる。</p>	<p>[参考文献] 岩本裕『仏教説話の源流と展開』、東京、1978.</p>			
<p>[教科書] 講義の際に資料を配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
民俗学		前期集中	4 単位	橋 内 武
<p>[講義概要・学習目標] 庶民の伝承文化を観察・記述するのが民俗学である。本講では、まず民俗学とは何かという問いに答えたと、さまざまな伝承文化について解説する。究極的には伝承文化への興味と関心を抱いて、履修生諸君が自ら身近な民俗事象への考察を進めることができるようになることをその学習目標とする。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 民俗学とは何か ― 民俗学の課題と方法 2. 人生儀礼 ― 誕生から葬送まで 3. 年中儀礼 ― 盆と正月 4. 俗信 ― 予兆・卜占・禁忌・呪術 5. 昔話 ― タイプと研究方法 			
<p>[成績評価の方法] 期末試験による。</p>	<p>[参考文献] 上野和男ほか、「新版 民俗調査ハンドブック」、吉川弘文館、1987. 福田アジオほか編、「日本民俗大辞典」(上・下)、吉川弘文館、1999.</p>			
<p>[教科書] 稲田浩二・稲田和子、「日本昔話100選」、講談社、1996.</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
文学概論		通 期	4 単位	和 栗 了
[講義概要・学習目標] 文学とは何かという問いに対してひとつの解答を出すために、作品をこまかく、正確に、かつ想像力豊かに読む方法を講義する。文学とは言語による表現に依存しながらも言語では表現できないものを伝えようとするものである。この決定的な逆説のなかで読む行為をしなければならぬ読者には、必然的に読む技術が求められる。すぐれた文学作品とは個々の真理を表現するために最良の方法を選択したものだとなれば、表現されていないものを求めて言語表現を詳細に検討することが真理探究への道である。作者の選んだ言語表現を前にして、沈黙の言葉を読み取る方法を伝える。 この授業の目的は、文学作品をどのように読むべきか、その方法を各自で発見することである。	[講義計画] 第1回目の授業で詳しいシラバス等を配布します。			
[成績評価の方法] 出席とレポートによる。	[参考文献]			
[教科書] 第1回目の授業で指示します。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
比較文学		通 期	4 単位	赤 瀬 雅 子
[講義概要・学習目標] 近年、わが国では比較文学研究がますます盛んになってきた。比較文学は今世紀のはじめ、フランスにおいて始まった学問である。そして1960年代にひとつの頂点に達したものである。 この学問は文学研究の一方法であり、その意味では、例えばフランス文学研究等と同質のものであった。加えて同時代の外国文学の深い影響を考察するものであることが、厳守され、それに反する研究は比較文学とは見なされなかった。また古典の比較文学的研究も歓迎されなかった。 このような多くの制約から自由になろうとして起こったのがアメリカを中心とした対比的研究方法である。この方法から派生した比較文学と平行して比較文化を考察しようとする方法は意外な成果を生み、わが国においても比較文学・比較文化の研究が主流となってきた。 基本のアカデミックな比較文学の方法を紹介しながら、新しい対比研究の方法をも具体的に考察する。なお学会の先端で行われている影響研究と対比研究を併用した方法にも無理のない範囲で触れてゆきたい。	[講義計画] 現在、わが国の多くの大学で比較文学の講義を担当している多くの研究者が大学生のために書き下ろした数編ないし十数編の論文に触れながら、比較文学・比較文化を学ぶ楽しさを引き出して行く。コスモポリタンなものの考え方をすることの大切さを常に意識したい。			
[成績評価の方法] 前期末に提出するレポートと、学年末の試験とのふたつが重要であるので、どちらも欠かないようにしていただきたい。出席率をよくすることも大切である。成績評価はそれらの総合によってなされるものである。	[参考文献] 富田仁・赤瀬雅子著『明治のフランス文学』（駿河台出版社）			
[教科書] 松村昌家編『比較文学を学ぶ人のために』（世界思想社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
キリスト教特講 (マルコ福音書の研究)		通 期	4単位	滝 澤 武 人
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>「新約聖書」には27巻のさまざまな文書が含まれており、それらはいずれも人類全体の大きな知的遺産であり、今日においてもなお文学・歴史・思想・宗教・芸術などに対して新鮮な光を投げかけている。そのような「新約聖書」の中の「マルコ福音書」を読むことが今年度の講義の目標である。</p> <p>「マルコ福音書」はいわば一つの「文学」（ノンフィクション、ドキュメンタリー、評伝）であり、その著者は「作家」「編集者」なのである。したがって、そこにはきわめて独自の思想と断固たる主張とが存在している。それを明らかにするためには、いわゆる「編集史的研究」という方法を土台としなければならない。真面目な学生諸君の主体的な受講を期待している。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>マルコ福音書を段落ごとに読みすすめていく。また、次のようないくつかのテーマ別に論ずる予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 イエスに従う 2 弟子批判 3 民衆 4 ユダヤ教批判 5 人間主義・世界主義 6 神の国 7 福音 8 終末 9 十字架刑 10 復活 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>試験・レポート・出席・受講姿勢などを総合的に評価する。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>滝澤武人『福音書作家マルコの思想』（新教出版社） 〃 『人間イエス』（講談社現代新書） 〃 『マルコの世界』（日本キリスト教団出版局） 田川建三『原始キリスト教史の一断面』（勁草書房）</p>		
<p>[教科書]</p> <p>新共同訳『新約聖書』（日本聖書協会） （できれば旧約聖書をも含んだものを準備し、 授業時には必ず毎時間持参すること。）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
哲学特講（ギリシアの哲学者たち）		通 期	4単位	山 川 偉 也
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>ギリシアの哲学者たちが残した思想的遺産に、生命・環境・芸術の観点からアプローチする。</p>		<p>[講義計画] テキストに沿って講義する。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席態度、前・後期試験の結果を総合的に判定して決定する。</p>		<p>[参考文献]</p>		
<p>[教科書] 山川偉也『古代ギリシアの思想』（講談社学術文庫）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
文学特講（日本近代文学をいろいろ作家達）		通 期	4 単位	佐 藤 慶 子
【講義概要・学習目標】 明治、大正、昭和、平成の日本の作家達の短編小説を味わうことで、登場人物に託された人間の生き方を追いかけてながら、我々の生き方を見つめ直してみたい。	【講義計画】 担当者を決めて発表させ、質疑応答と討論で、授業を進めるので、発表者以外にも積極的に参加してほしい。			
【成績評価の方法】 毎時間、初めの15分間程度で、その日の資料に目を通させ、自分なりに理解してみるレポートを書かせ、平常点とする。出席を重視し、前・後期末試験に、授業中の態度を加算する。	【参考文献】 必要に応じて紹介する。			
【教科書】 夏目漱石『文鳥・夢十夜・永日小品』角川文庫。 川端康成『掌の小説』新潮文庫。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
西洋社会史		通 期	4 単位	山 田 義 顕
【講義概要・学習目標】 ヨーロッパの諸問題を中心に講義する。まず、「社会史」とは何かを述べた後、いくつかのテーマを設定して、それぞれ2～3回で論じる。テーマによっては、中世から現代まで及ぶ場合があるので、時代順の講義とならない点に注意してもらいたい。 講義を通して、歴史とはこのような見方もあるのだということを感じてもらえればと思う。 なお、講義のさいにミニ・レポートを課することがある。質問・疑問などを書いてもらい、それにもとづいてさらに講義を進めることにしたい。	【講義計画】 主なテーマ ①「社会史」とは何か：歴史に対するいくつかのアプローチの仕方を紹介したうえで、「社会史」の意味を考える。 ②都市：都市の役割・機能は、時代によってどのように変化したのか。人間にとって都市とはどのような意味を持ったのか。古代の都市国家（ポリス）、中世都市、近代都市を比較検討する。 ③病気（ペスト）：中世後期から19世紀まで、ヨーロッパ社会は断続的にペスト（黒死病）に悩まされた。このペストが社会に与えた影響について考える。 ④差別（魔女）：魔女とは何か。魔女はなぜヨーロッパ特有の現象だったのか。 ⑤差別（黒人奴隷）：奴隷貿易の成立と人種差別の関係について論じる。 ⑥スポーツ：人間は時代により、また場所により、さまざまなスポーツを楽しんできた。スポーツと社会のかかわりをとりあげる ⑥食物：未知の食物の発見は、ヨーロッパ人の嗜好にどのような変化をもたらしたのか。「食草革命」という視点から考える。			
【成績評価の方法】 出席と、レポートもしくは試験によって評価する	【参考文献】 講義中に必要に応じて指示する。			
【教科書】 なし。講義のさいに、プリントを配布する				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本社会史		通 期	4 単位	生 瀬 克 己
[講義概要・学習目標] 私たちの祖先を具体的にたどりうるのは、江戸時代の初期か戦国時代までがせいぜいである。けれども、江戸期における幕藩社会の成立は、わが国の歴史を考えるうえで、決定的に重要である。第一には、夫婦とその子どもという現代の家族とはほかわりない形態で暮らしはじめるのもこの時代であるし、穀物の増産や防災のための治山治水（国土開発）がなされるのもこの時代である。 このようにして、人びとの「豊かさ」をめざした努力のうえにたつて「近代社会」を迎えることになる。欧米列強からの圧力のなかでの「近代社会」をめざしての努力は、そこで暮らす民衆にとっては、どのようなものであったのか。結果としては、いわゆる「戦争の時代」へとつながってしまうのであるが、そのような時代における庶民生活に特徴的なところを考えていくことにしたい。		[講義計画] 1) 国土利用の時代と庶民生活 2) 近代社会の成立とその特質 3) 工業化の過程と民衆 4) 戦争の時代と傷病軍人 5) まとめ		
[成績評価の方法] 学期末に実施する「論述式筆記試験（60%）」と、講義期間中に数回は実施する予定の「レポート（40%）」の合計点で評価する。		[参考文献] 必要に応じて指定します。		
[教科書] 特には指定しません。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
東洋史	0 1 0 2	通 期 通 期	4 単位 4 単位	原 山 煌
[講義概要・学習目標] この講義は、中国世界を中心とする東アジア世界を主な考察の対象とする。この地域の歴史は、「中華」と自認する漢民族と、その周辺に居住する諸民族（漢民族からは「夷狄」とよばれる）の二大要素の相剋によって展開されてきたという見方ができる。よく知られている北方騎馬遊牧民族、匈奴や突厥、モンゴルなどは特に著名な活動により、中国世界の実質自体が大きく変貌することがしばしば見られたのである。東アジア世界を、そのような観点から通観し、再構成してみよう。こうした問題関心は、多民族複合国家として存在する現在の中華人民共和国を考えてみる場合にも大きなヒントにも、結びつくことだろう。		[講義計画] 1. この授業の目的と講義の進め方の説明 2. 多民族複合国家、中華人民共和国とは 3. 中国世界の表情 4. 中華と夷狄 5. 以下、時代を追って東アジア史を通観して行く		
[成績評価の方法] 授業への理解度と出席状況を確認するための小テストを毎回おこなって出席状況と理解状況を確認する。これと各学期末の定期試験によって総合的に評価する。		[参考文献] 寺田隆信『物語 中国の歴史』中公新書 中央公論社。 関野英二等『内陸アジア』地域からの世界史6 朝日新聞社。		
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
西洋近代史		通 期	4 単位	山 田 義 顕
<p>[講義概要・学習目標] 近代ヨーロッパとは、ヨーロッパの拡大の時代だったといえる。しかしこの時代は、必ずしも明るい時代だったとはいえないし、この時代全体を通じてヨーロッパ諸国による世界支配、つまり非ヨーロッパ地域の隷属化が完成する。この講義では、いくつかのテーマを設定してこの問題にアプローチするが、学生諸君には、歴史のなかで「近代」のもつ意味を改めて考えてもらいたい。なお、講義のさいに小レポートを課することがある。質問・疑問などを書いてもらい、それにもとづいてさらに講義を進めることにしたい。</p>		<p>[講義計画] 主なテーマ ①時代区分としての「近代」：近代とはどのような時代か。いくつかの時代区分を紹介したうえで、近代の特質を考える。 ②ヨーロッパの歴史地理：地形をもとに、ヨーロッパ社会の宗教・民族・言語の分布を整理する。 ③ルネサンス：社会経済的背景を考える。 ④宗教改革：時代背景を整理したうえで、ルターとカルヴァンの職業観の比較をおこなう。 ⑤大航海の時代：ヨーロッパの拡大の過程と、それがもたらした諸問題（たとえば、奴隷貿易）について論じる。 ⑥産業革命：研究史を紹介したうえで、この革命がもたらした功罪を考える。 ⑦19世紀ナショナリズムの諸問題：その概念、発現形態、具体例（ドイツ統一）などについて論じる。 ⑧帝国主義の時代：19世紀後半のヨーロッパ列強の対立・抗争について論じ、第一次世界大戦への道を探る。</p>		
<p>[成績評価の方法] 出席と、レポートもしくは試験によって評価する</p>		<p>[参考文献] 講義中に必要に応じて指示する。</p>		
<p>[教科書] なし。講義のさいに、プリントを配布する</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
アジア文化史		通期	4 単位	原山 煌
<p>[講義概要・学習目標] 中国を中核とする東アジア世界を有機的な統一体にしてきた大きな要因に漢字がある。漢字という文字システムによって、中国は多彩豊富な文化を発信し続けることが出来たのである。そして、まさにその漢字によって中国で生まれた文化複合が周辺世界に伝播し、その刺激を受けて周辺各地で固有の民族文化が形成されていったのである。この講義においては、中国における漢字の発達、それぞれの時代における漢字の意義、また漢字を用いて展開された中国の情報文化のさまざまな展開などについて、実例を挙げながら考えて行こう。 また、周辺諸地域における文字の形成、情報伝達の発展というテーマについても併せて探索してみよう。さらに、ここでは、周辺諸民族の問題として、無文字社会における情報伝達のありかたというテーマが特に考えるべき問題として採り上げられることになるだろう。</p>		<p>[講義計画] 1. この授業の目的と講義の進め方の説明 2. 中国世界とはなにか 3. 中国における文字のはじまりー甲骨文と金文ー 4. 神との伝達手段から人間の道具へ 5. 書写材料という要件 6. 文字を持つということ 7. 中央ユーラシアにおける文字の形成</p>		
<p>[成績評価の方法] 授業への理解度と出席状況を確認するための小テスト、年数回のレポート（参考文献を3冊以上参照したオリジナルな論考に限る。既存文献の丸写しは除籍）と、各期末の定期試験の成績によって総合的に評価する。</p>		<p>[参考文献] 授業中に随時紹介する。</p>		
<p>[教科書] 藤枝晃『文字の文化史』講談社学術文庫 講談社 1977。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
西洋文化史		通 期	4 単位	岩 津 洋 二
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>今日のヨーロッパはEU(欧集連合)として統合されつつある。国民国家の時代に形成された(イタリア人とかフランス人とかの)各国民意識を越えた「ヨーロッパ人」意識をもつ人々も増大している。他方では、それぞれの民族の文化的伝統の独自性をまもろうとする運動も高まりを見せている。この講義は、おおきく変貌しようとしているヨーロッパとヨーロッパの人々の現在を理解するための枠組みを提示することを目的とする。</p> <p>したがって、建築や美術といった特定の文化的な領域の歴史をたどるような講義ではない。多くの日本人にとって憧れの的であったヨーロッパの、一般にはあまり注目されることのない側面に焦点を当てながら、その文化的特質について考察する。EUのおこった最新の意識調査などもデータとして利用されるであろう。</p> <p>近代の日本人の西洋への無批判的な憧憬を解体し、西洋を冷静に見直すきっかけとなる講義にしたいと考えている。</p>		[講義計画]		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>何回かのレポートと学年末の試験による。</p>		[参考文献]		
<p>[教科書]</p>				
				授業中に指示する。

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人文地理学	01	通 期	4 単位	野 尻 直
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>地理学は「地域」・「空間」および人間の「空間的行動」や「環境知覚」などを研究対象としている。地理学も当然のことながら固有の理論や法則を持っている。本講では人文地理学の理論や方法論の基礎について、学説史の流れに沿いながら展望することとしたい。</p> <p>地理学の論文を読む時、地理学の研究を行う時に必要な思想の体系についてわかりやすく解説する。</p> <p>従って、中学・高校で学習する「地理」の授業の内容とは異なる話となることを予め承知していただきたい。</p> <p>社会学・経済学・経営学を専攻する学生にとっての専門課程での教育内容と関連した授業を提供することを心がけたい。</p>		[講義計画]		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>定期試験(持ち込み不可)。得点が上位から席次35位以下には単位を与えない。問題は客観テストと論述問題とする。</p>		[参考文献]		
<p>[教科書]</p> <p>使用しない</p>				
				西川 治 『人文地理学入門』東大出版会
				<p>〈前期〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 探検記・産物誌から近代地理学へ 地理と地誌の違い 2. 生態学的視点と地域システム フンボルト・リッター ラッツェル・ブラーシュ 3. コロロギーから「地域分化」の研究へ リヒトフォーフェン・マルテ・ハーツホーン 4. 地理学における例外主義批判と計量革命 5. 「地域」と「空間」の違い 流動を分析する視点グラヴィティ モデル 6. 行動地理学とタイムジオグラフィー <p>〈後期〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 人文主義地理学 場所や景観の意味づけについて 8. マルクス構造主義と都市研究 9. 立地論 ウェーバー 輸送費・労働費・集積の利益 10. 立地論 レッシュ 市場の均衡と立地条件 11. クリスタラーの中心地研究 12. 現代における地理学の課題

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人文地理学	02	通 期	4 単位	藤 森 勉
<p>【講義概要・学習目標】</p> <p>本講義では、人間の社会生活・社会活動が「地域」とどう関わってきたか、どんな問題があるかを事例研究の成果をもとに具体的に解説する。その場合、地域の大きさや社会集団の大きさによって、それぞれ異なる関係が見られるので、前期は大スケールの場合を、後期は小スケールの場合を取り上げる。</p>	<p>【講義計画】</p> <p>【前期】大スケールの地域としてオーストラリアを対象とし、次の課題を解説する。</p> <p>(1) 先住民のアボリジニアの生活と社会 (2) イギリス植民地政策とアボリジニア (3) 連邦国家成立と中国人・日本人移民 (4) 日豪経済関係</p> <p>【後期】小スケールの地域として日本国内の諸地域について地域社会問題を解説する。</p> <p>(1) 干拓地の農業 (2) 中国山地の台地 (3) 瀬戸内海の塩業 (4) 過疎山村 (5) 地味湖市 (6) 巨大都市 等を対象とする。</p>			
<p>【成績評価の方法】</p> <p>定期試験による。</p>	<p>【参考文献】</p> <p>必要に応じて紹介する。また地図・資料等のプリントを配布する。</p>			
<p>【教科書】</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
環境問題概論	01 02	通 期 通 期	4 単位 4 単位	巖 圭 介
<p>【講義概要・学習目標】</p> <p>環境問題に関するニュースがマスメディアに流れない日はない。ダイオキシン、環境ホルモンといった、人体に悪影響があるとされる人工化学物質の検出、シックハウス症候群やアレルギー、家庭ゴミや産業廃棄物の処理機能の限界、リサイクル、省エネルギー、環境に優しい製品、水や大気汚染、オゾンホール、地球温暖化。あふれかえる情報はかえって市民の感覚をマヒさせ、センセーショナルリズムと虚無、そして不安に乗じた似非（えせ）科学をはびこらせる。</p> <p>今必要とされるのは、上滑りなマスコミの情報に惑わされないための正しい基礎知識と、いたずらに不安を増幅させられないための基本的なものの考え方である。この授業では現在の主要な環境問題についての基礎的な理解を深め、環境意識を高めてもらいつつ、環境に関する情報の洪水の中を泳ぎ抜く力をつけてもらうことを目的とする。</p>	<p>【講義計画】</p> <p>以下のテーマをカバーする予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・破壊される地球システム 酸性雨、オゾン層破壊、地球温暖化 ・あふれるゴミ ・汚される地球 DDT・PCB、ダイオキシン、環境ホルモン ・水質汚染 ・失われる熱帯雨林 ・砂漠化する大地 ・エネルギー問題 			
<p>【成績評価の方法】</p> <p>前期末と後期末2回の論述式試験、夏休み、冬休みのレポートに加え、授業中に数回提出してもらう感想文により判定する。</p>	<p>【参考文献】</p> <p>適宜授業中に示す</p>			
<p>【教科書】</p> <p>とくになし</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
自然環境論		通 期	4 単位	井 田 和 子
[講義概要・学習目標] 自然秩序や自然システムの複雑な因果関係を軽視した大規模な資源開発や土木・建設事業などが、大災害の原因や誘因になることが多くなった。地域的自然システムの地球科学的認識、人間を含む生態系の研究や地域環境学としての地理学の考察と応用が不可欠なのである。ここでは、日本列島の風土的特色を総合的に把握できるように留意した。	[講義計画] [前 期] 日本の歴史的風土、日本人の自然観、日本の地質・地形、地形環境と開発史、日本の気候の特色と生活、水文環境、日本の森林と文化、自然環境の利用と保全 [後 期] 大気汚染・水汚染の舞台、土・植生と環境、人口・都市と環境、産業と環境、交通と環境、開発と保全、公害都市（各国の公害）。			
[成績評価の方法] テーマに関するビデオを見て数回のレポートを書いてもらい、期末テストの結果とあわせて評価する。	[参考文献] 放送大学教材、那須・西川著『日本の自然』 古今書院、福岡義孝著『図説環境地理—地球環境時代の地理学—』			
[教科書] 毎回プリントを配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
環境と法		9・12月集中	4 単位	土 屋 正 春
[講義概要・学習目標] 16000億円。これは日本における汚水浄化・排煙脱硫など各種環境保全関連設備の年間出荷額だ。これだけ国民が負担している、「環境問題」は深刻になりこそすれ、改善の傾向にはない。1日25万人のペースで増える世界人口が、先進諸国の「文化的生活」を目指して「発展」している以上、最高のクリスマスプレゼントはエベレスト近辺の空気という日が訪れるのも近い。が、そのカトマンズでさえ、混雑した道路は排ガスとごみの腐臭にあふれている。 成長と発展と信じて来た道にブレーキをかけねばならない。では、法には何が出来て何が出来ないのか。人々の「文化的生活」志向を法はコントロール出来るのか。環境問題のあり方と対応とを、法を視座の中心としてみよう。	[講義計画] ・1日の授業で1つのテーマを扱うことを原則とします。 ・ベースとなるテーマ表は第2回目の授業時にお知らせします。 ・受講生の積極的な参加型式をとります。			
[成績評価の方法] レポートを数回課します。 (フロッピーディスクで提出していただきます)	[参考文献]			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
環境と経済		9・12月集中	4単位	仁 連 孝 昭
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>河川・湖沼の汚染、廃棄物問題の深刻化、発展途上地域の開発と環境とのジレンマなど、具体的な事例を取りあげながら、環境問題と経済がどのように関わっているのか概観する。その上で、持続可能な人間と環境との関係はどのようなものであるべきかを概説する。最後に、それらをふまえて、環境税、排出権取引、環境の経済的評価など、経済と環境の調和のための制度的工夫について述べる。</p>				<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 河川・湖沼の環境汚染とその対策 2 廃棄物と豊かな社会 3 発展途上地域の開発と環境 4 人間行動と環境 5 農業と環境 6 工業と環境 7 持続可能な社会とは 8 経済的手段はどこまで有効か 9 ローカルマネー 10 環境の経済的評価 11 環境と経済は両立するか
<p>[成績評価の方法]</p> <p>試験と授業中に適宜課すレポートによって評価する。</p>				<p>[参考文献]</p> <p>シューマッハー（小島慶三他訳）『スモールイズビューティフル』講談社学術文庫 グレーデル、アレンビー『産業エコロジー』トッパン エキンズ『生命系の経済学』御茶ノ水書房 本山美彦『豊かな国貧しい国』岩波書店 室田武、多辺田政弘、槌田敦『循環の経済学』学陽書房</p>
<p>[教科書]</p> <p>特に定めない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
部落問題論		通 期	4単位	黒 田 伊 彦
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>部落解放運動の展開によって劣悪な生活実態は改善されつつある。だが未だに部落への差別の根柢は解消されていない。解放教育や社会啓発が広く行われてきたが、差別事象は跡を絶たない。「なぜか？」部落への差別の基礎にある穢れ意識と天皇制の関係。それとの闘いを通じて部落解放の主体形成を跡づけ、部落解放理論の論争点を検討して、部落解放のあり方を考察する。</p> <p>映像資料を多く用いる、その時は簡単な感想文を課す。</p> <p>夏期休暇中に大阪人権博物館、奈良の水平社博物館、堺の船松歴史資料館、岡山の洪染一揆資料館、福山市人権平和資料館、三重人権センター、福岡県人権啓発センター等々各地の人権博物館の見学学習とその報告レポートを課す。</p> <p>これらの学習を通じて、部落問題を日本の歴史と文化の中に位置づけ、日本の歴史や文化の構造を逆照射する視点の確立を期したい。 更に部落低位性論、部落悲惨史論を克服し「人間は尊敬すべき存在である」という全国水平社宣言の思想の体得に努めたい。</p>				<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> I 部落差別と天皇制 <ol style="list-style-type: none"> 1. 穢れと世間体、戸籍制度と天皇制 2. 西光万吉と皇産主義 3. 神武天皇陵拡張と洞部落の強制移転 4. 別府のヶ浜部落焼打事件と解放歌 5. 福岡連隊爆破陰謀事件の真相と松本治一郎の闘い 6. 全国水平社と侵略戦争－世界の水平運動 7. 旧「満州」移民と来民開拓団の集団自決の悲劇 8. 現代の天皇制と部落差別－聖と賤の対立意識 II 狭山事件と部落問題 <ol style="list-style-type: none"> 1. 狭山事件の内容・性格と部落解放運動 2. 狭山事件の模擬陪審裁判 III 同和行政の歩みと街づくり <ol style="list-style-type: none"> 1. オールロマンス事件と同和行政の全国化と変容 2. 阪神・淡路大震災と被差別部落・自立と共生の街づくり IV 部落問題の論争について <ol style="list-style-type: none"> 1. 部落の近世政治起源説批判をめぐって 2. 部落民からの解放か部落民としての解放か —部落の共同幻想と部落民としてのアイデンティティー—
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前・後期のテストとレポート及び出席点で総合的に評価する。大阪人権博物館等、各地の人権博物館の見学学習レポートを課す。出席を重んじる。</p>				<p>[参考文献]</p> <p>黒田 伊彦（著） 『改訂 部落問題学習16講』 （柘植書房新社） 八木 晃介（著） 『部落差別論』 （批評社） 藤田 敬一・師岡 佑行（編） 『部落史を読む』 （阿吽社） キムチョンミ（著） 『水平運動史研究－民族差別批判－』 （現代企画室） （金 静美）</p>
<p>[教科書]</p> <p>黒田 伊彦（著）『部落史紀行』（柘植書房新社）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
民族問題論		通 期	4 単位	小 柳 伸 顕
【講義概要・学習目標】 ・1997年、アイヌ文化振興法が成立し、北海道旧土人保護法(1899)は廃止されました。日本政府がようやくアイヌ民族を一族として認め、単一民族国家神話を否定したことになります。日本で民族問題を語りとき、アイヌ民族抜きに語ることはできません。同様に「琉球処分」にみられる明治政府の沖縄政策にも注目する必要があります。沖縄に目向けにより、また別の日本の姿が見えて来ます。アイヌ民族や沖縄から「日本」をもう一度見直してみたいと思います。		【講義計画】 * 前期 日本の場合、近代国家としての民族政策は、アイヌ民族政策に典型的に見られます。その代表が明治政府により実施された「北海道旧土人保護法」です。この法律の成立から廃止にいたる過程を検討します。 * 後期 明治政府の民族政策のもう一つの柱が「琉球処分」です。琉球処分は、沖縄に何をもたらしたのか、またそれは明治政府で終わったのか、と沖縄の歴史を通して考えてみます。		
【成績評価の方法】 期末テスト (ただし前期末に小レポートあり)。		【参考文献】 * 菊池勇夫 『アイヌ民族と日本人』 朝日新聞社。 * 新川 明 『異族と天皇の国家』 二月社 注: 沖縄関係。 なお、授業では、それぞれの参考文献をテーマ別に紹介します。		
【教科書】 特になし。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
障害者問題論		通 期	4 単位	生 瀬 克 己
【講義概要・学習目標】 江戸後期から、できるだけ現代に近いところまで、いくつかの文学作品を取り上げて、それらの作品に登場してくる障害者たちを素材として、それぞれの時代における障害者像を明らかにしていきたい。 同時に、それらの作業を通じて、それぞれの時代における人びとの暮らしぶりや障害者のかかわりを考えていくことにしたい。言葉をかえていうと、障害者の登場する文学を通じて、江戸後期から明治・大正・戦前昭和といった時代の庶民生活史を論じていくことになろう。		【講義計画】 障害の有り様を肢体不自由、知的障害、精神障害というように一応の分類をしたうえでそれぞれの障害者の時代ごとのあり方の違いを把握していくことになる。 できるだけ、それぞれの障害の違いがどのように作品化されているかを考えていくことになる。なお、いくつかの作品については、受講生にも読破してもらおうと考えている。		
【成績評価の方法】 学期末に実施する「論述式筆記試験(60%)」と、講義期間中に数回は実施する予定の「レポート(40%)」の合計点で評価する。		【参考文献】 必要に応じて指定します。		
【教科書】 特には指定しません。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史・社会特講 (都市社会の歴史的研究)		通 期	4 単位	佐賀 朝
[講義概要・学習目標] 近年、日本史の分野では都市を対象とした研究が進展し、都市社会の多様な実態が明らかになってきている。本講義では、近代都市大阪を対象に、その社会構造の分析を試みる。特に、①都市住民の生活実態やそこで取り結ばれる多様な社会関係を具体的に明らかにすること、②巨大都市をノッペラボーなものとして捉えるのではなく、その構成要素であるさまざまな地域社会の特色や個性に注目すること、③フィールドワークや聞き取りも含めたさまざまな史料を多面的に分析すること、などを重視したい。 まず前期には、明治期の都市内の地域社会として、遊廓、貧民窟と盛り場、工場地域などを取り上げて、その社会構造を分析していく。後期には、大正～昭和戦前期の都市社会について、米騒動や住宅問題などの都市社会問題、都市における「俠客」（きょうかく）の役割、大阪の町内会と学区、などを取り上げて論じていく。 春と秋の2回、大阪のまちを歩くフィールド・ワークも実施する予定。 日本史だけでなく、社会学や経済学、文化研究などを専攻する諸君にも、ぜひ受講してもらいたい。	[講義計画] おおむね以下のようなテーマを論じる予定。 (前期) 明治期大阪の都市内地域 遊廓と地域社会—松嶋遊廓の成立— 長町と千日前—貧民移転問題を素材に— 工場と地域社会—造幣局を素材に— (後期) 米騒動の勃発と方面委員制度の発足・展開 日本橋「裏長屋」の生活と不良住宅地区改良事業 大正～昭和期の「俠客」と都市社会 住宅問題と借家争議 大阪の町内会・学区と地域支配 ほか			
[成績評価の方法] 出席、レポート、定期試験などにより総合的に評価する。	[参考文献] 原田敬一『日本近代都市史研究』（思文閣出版、1997年） 広川禎秀編『近代大阪の行政・社会・経済』（青木書店、1998年） 芝村篤樹『日本近代都市の成立—1920・30年代の大阪—』（松籟社、1998年） 以上のほか、授業のなかで随時、提示する。			
[教科書] 随時、プリント等を配付する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人権・環境問題特講 (文明と水辺)		通 期	4 単位	井 田 和 子
[講義概要・学習目標] 日本人の自然に対する豊かな感性は、水辺などの美しい景観を通して育まれたとも言える。しかし、農業国から工業立国への転換の過程で、水辺の様相を一変させてしまった。環境資源としての水辺を考える。	[講義計画] 1. 自然界の水 2. 河川水とその働き 3. 河川と人間—人間の歴史は川のほとりから— 4. 地球環境問題と河川 5. 地下水と水道水 6. 日本の河川 7. 治水・利水の技術の変換 —「都市に降る雨水を水資源としてためる」に至るまで— 8. ダムの歴史と現状 9. 化学物質の拡散と水圏の汚染 10. 人類は子孫を残せるのか			
[成績評価の方法] テーマに関するビデオを見て数回のレポートを書いてもらい、期末テストの結果とあわせて評価する。	[参考文献] 古今書院、畠中武文著『河川と人間』 築地書館、美浦義明著『化学汚染と人間の歴史』			
[教科書] 毎回プリントを配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ギリシア語		通 期	4 単位	山 川 偉 也
西欧文化の根源をある程度深く知ろうとすれば、ギリシア語の知識が不可欠となる。この授業は西洋文化、ギリシア文化を地道に学びたい人のために開講される。		【講義計画】 テキストに沿って漸進的に行われる。		
日頃の学習態度および前・後期の試験による。		【参考文献】		
【教科書】 田中美知太郎・松平千秋『ギリシア語入門』岩波書店				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ラテン語		通 期	4 単位	木 下 昌 巳
【講義概要・学習目標】 ラテン語は、古代ローマ帝国の公用語であったが、現代では日常生活においてラテン語を使っている人は少ない。その意味において、ラテン語はいわば死語であり、海外旅行に行ってもそれを使う機会はない。しかし、ラテン語で書かれた著作は、古典ギリシアの著作とともに、西欧の人文主義的な伝統の基礎となったものであり、そこに含まれている思想は西欧文明の精神的源泉であると言える。さらに、現代使われている英語やフランス語などの現代語は、ラテン語の子孫・親戚というべき関係にあり、ラテン語を学ぶことによって英語・フランス語などの視野も大きく広がるだろう。このような言語に触れることができるのは、いわば大学生の特権であり、広く言葉に興味のある人の受講を歓迎する。言うまでもなく、ラテン語に限らず言葉の習得には、繰り返しの練習が不可欠である。区切りごとにおこなう小テストによって成績を決定するので、単位だけを目標にしてこの授業を選択すると後悔することになるだろう。		【講義計画】 テキストにしたがって演習形式で問題を解いてゆき、区切りごとに小テストを行う。		
【成績評価の方法】 小テストの成績による		【参考文献】		
【教科書】 講談社現代新書 大西英文 著『はじめてのラテン語』				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
インドネシア語		通 期	4 単位	北 野 正 徳
[講義概要・学習目標] <p>この講義では、基本的なインドネシア語を学ぶことを目標としている。インドネシア語それ自体についての紹介から始まり、単語の表記と発音、基本的な語法と文法などへ進んでゆきたい。これらの項目を練習することを通じて、簡単な会話と作文ができるようになることが、この講義の最終的な目的である。また、授業では、インドネシア語が実際にどのように使われ・理解されているかをより良く知るために、インドネシアの社会や文化に着いてもコメントを加えてゆきたい。</p>	[講義計画] ① インドネシア語の紹介 ② 表記と発音 ③ 基本的な語法と文法 ④ 発音・会話・作文の練習 ⑤ 簡単なコミュニケーション			
[成績評価の方法] <p>平常評価。出席、授業態度、各学期末頃に授業時間を使って書き取り・聞き取りを行う。</p>	[参考文献]			
[教科書] <p>柴田紀男 『エクスプレス インドネシア語』 白水社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
異文化間コミュニケーション論		通 期	4 単位	遠 山 淳
[講義概要・学習目標] <p>講義の内容は、異文化間コミュニケーションの諸現象およびそのメカニズムや、情報、文化、コミュニケーションの相関関係、言語とコミュニケーション、宗教とコミュニケーション、歴史とコミュニケーション、などについて講義し、普遍文化と個別文化との関係、異文化理解、文化変容、地球化時代の価値観・行動様式について考察する。 情報は文化を生成し、文化は人間に対して規範的に係わる。異文化理解も自文化からの自文化的な「理解」である。異文化間コミュニケーションの最大の問題は自文化なのである。 なお、本講義では、教職課程履修生(英語科)に配慮し、日英米の文化比較、文化の違いから生じる問題点とその解決方略についても重点的に講じる。</p>	[講義計画] 1. 異文化間コミュニケーション論とは 2. 「文化」とは：静態と動態、定義、情報代謝理論 3. 自文化中心主義と文化相対主義、「グローバル・スタンダード」と「アメリカン・スタンダード」 4. コミュニケーションの志向性と型、動因と文化型、文化の生成と文化特性 5. 言語と文化、英語と英語圏文化、国際英語と文化 6. 非言語コミュニケーションの国際性 7. コミュニケーション能力と言語能力、アメリカ人と日本人の表現能力の比較 8. コミュニケーションの文化型：片立文化と両立文化（アメリカ文化と日本文化） 9-10. コミュニケーションの比較：アメリカと日本 11. 「理解」法の比較：「わかる」（分解型）と“understand”（征服型） 12. 定量的方法と定性的方法、特徴と限界			
[成績評価の方法] <p>前期末、学年末に試験またはレポートを課し、総合的に評価する。</p>	[参考文献] 遠山他著・石井橋本編『日本人のコミュニケーション』桐原書店、1993 古田暁編・石井・久米他著『異文化コミュニケーション』有斐閣、1987 祖父江孝男『文化人類学入門 増補改訂版』中公新書、1992 遠山他編著『異文化コミュニケーションの理論』有斐閣、2001			
[教科書] <p>遠山他共編者『異文化コミュニケーション・ハンドブック』 有斐閣、1998</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
言語学概論		通 期	4 単位	林 宅 男
[講義概要・学習目標] 言語学とは言語の本質、構造、使用の規則等を科学的に研究する学問である。その研究内容や方法は多様で関連領域も広く、近年特に急速に発展を遂げてきたが、それが共通に目指しているところは言語を通しての人間そのものの理解であると言える。このことを念頭におきながら、本講義では、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論、といった狭い分野にとどまらず、動物言語研究、社会言語学、言語習得論、文体研究、非言語コミュニケーション論を含む幅広い範囲にわたって、最近の動向を含めて出来るだけ分かりやすく紹介したい。更に、我々に最も身近な言語である日本語については、別にその諸相を解説する。ここで扱うのは何れも言語学の概観であるが、その知識、ものの考え方、研究方法が、言語学研究のみならず、人間や人間社会についてのより深い理解や、思考の錬磨につながることを願う。		[講義計画] 1. 「言語学」とは何か 2. 動物の「ことば」と人間の言語（動物言語研究） 3. 比較言語学（言語の起源と世界の言語属） 4. 言語音の体系（音声学・音韻論） 5. 語の構造（形態論） 6. 文の構造（統語論[生成文法]） 7. 言葉の意味と運用（意味論・語用論） 8. 言語と社会（社会言語学） 9. 言語とこころ（言語習得論・言語心理学・言語人類学） 10. 言葉によらないコミュニケーション（非言語コミュニケーション論） 11. 日本語の諸相 12. 言語と文学（文体研究）		
[成績評価の方法] 授業態度、レポート、試験を総合的に評価する。		[参考文献] (ほかの入門書) ジョージ・ユール (著) 今井邦彦・中島平三 (訳) 『現代言語学20章』大修館書店、1996 中島平三・外池滋生『言語学への招待』大修館書店、1994 ジーン・エイチソン (著) 田中春美 ほか (訳) 『入門言語学』、金星堂、1998年 ベン・クレインほか (著) 新長 馨 (訳) 『言語学概論』、北星堂、1999 小泉保 (著) 『日本語教師のための言語学入門』大修館書店 (用語解説) 田中春美 ほか (編) 『現代言語学辞典』成美堂、1988 (個別テーマの参考文献については、授業で指示する)		
[教科書] 石黒昭博 ほか (編) 『現代の言語学』金星堂、1996年				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
応用言語学		前期集中	4 単位	橋 内 武
[講義概要・学習目標] 応用言語学は、1940年代後半から50年代前半にかけて言語学の異言語教育への応用として成立したが、現在では学際的言語学として言語学と隣接科学の中間領域に位置づけられている。その他に、言語問題の学という立場や「ことばの職業」研究であるという立場もあり、一筋縄ではいかないのが、応用言語学である。本講では、これら4つの応用言語学についての基本事項を講ずることをもって応用言語学への誘いとする。履修者にことばの多面性に気付いてもらい、将来日本語教師や言語聴覚士などのことばの職業に就くために必要なことばに対する見方を養ってもらうことが、学習目標となる。		[講義計画] 1. 応用言語学とは何か — 課題と方法 2. 言語問題の学 — 言語障害、言語の消滅、ことばの乱れ、誤訳 3. 異言語教育学 — 教授法、教師・学習者、教材、辞書、評価 4. 学際的言語学 — 神経言語学、心理言語学、人類言語学、社会言語学、法言語学、経済言語学など 5. 「ことばの職業」研究 — 日本語教師、言語聴覚士、通訳		
[成績評価の方法] 期末試験による。		[参考文献] 白畑知彦ほか著、「英語教育用語辞典」、大修館書店、1999。 ジョンソン・ジョンソン編 (岡秀夫監訳)、『外国語教育学大辞典』大修館書店、1999。		
[教科書] なし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
言語文化特講 (社会言語学)		通期	4単位	大原 始子
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>日常、「ことば」は人間にとって空気のような存在であるため、その変化や使用の様子に注意を向けずにいることが多い。社会的要因と深く関わりながら、「ことば」は様々に姿を変え、日々変化している。また、話し手は、文化や社会の慣習にそって、「場面」や「相手」にふさわしい「ことば」を使い分ける。このように、言語の変種を、誰が、どこで、何を、どのように話すかに注目し、分析していく研究が社会言語学である。</p> <p>本講義では、前期では多様な社会における言語現象を中心に、後期では言語の多様性に焦点を当てて進めていく。専門的な内容に入るため、言語学の基礎知識があることが望ましい。社会学、文化人類学、社会心理学などと深く関わる学際的な学問領域なので、幅広い関心を持って、講義に取り組んでほしい。</p>		<p>[講義計画]</p> <p><前期> 言語と方言 国語、公用語、共通語、標準語 バイリンガルとダイグロシア ビジンとクレオール 言語とアイデンティティ アジアとアフリカの言語計画</p> <p><後期> 変種の地域差、世代差、男女差、階層差 日本語アクセントの平板化 借用語 会話分析</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期、後期終了時に、論述試験を行う。講義中に出すレポートの成績も評価に加える。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>その都度、プリントして配布、または指示する。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>『社会原義学への招待』(ミネルヴァ書房)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
言語文化特講(対照言語学)		通 期	4 単位	大 石 正 晴
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>対照言語学は言語と言語の対照研究を通じてそれぞれの言語の特性を明らかにし、また言語の本質を考えようとする言語学の一分野である。最近、国際関係の進展から、言語間の対照研究の重要性があらためて認識されるようになった。本講義では、日本語と英語を対照の素材として取り上げ両者の相違を見ることにする。英語と日本語はいうまでもなく異なった言語体系に属するため、文法、語彙、表現、音声・音韻等において著しい相違があり、この点が日本語を母語とする人たちに英語の学習を極めて困難にしている。しかし一方では、この違いを克服して英語を使用可能なレベルまで習得する必要があることもまた事実であるとすれば、日英語の相違点を理論的に追及するだけでは不十分である。本講義の目標は、理論的な面をしっかりとおさえた上で、実際に使える英語を生産することができるような方法を、できる限り多くの例を用いて習得してもらうことにある。日英語の違いが何に起因するかをそれぞれの発想の違い、さらにそれを生み出す文化的背景などを可能な限り深く探索してみたい。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>先ず、日英語の比較対照が必要な相違点を実際の例に基づいて概観する。次に、そうした違いが生じる言語文化の多様性や接点を考察する。そして、そこから得られる知識を活用して実際に英語らしい英語を作り出す原理や方法を見つけ出すように努める。</p> <p>講義の成果の有無は、受講者が受講したことを自ら実践に移せるかどうかという点にある。特に、日本語を母語とするものにとって日英語の違いの本質を知ることにより、一層容易に正しい英語の使用が可能になるという実践的な効果も大切にしたい。そのためには、日本語から英語へというライティングの作業も可能な限り取り入れてみたい。</p> <p>基本的には、講義内容の理解と、その上に立った英語使用力の向上といった実践面をバランスよく行いたい。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期・後期の定期試験、出席率、レポート等による総合評価</p>		<p>[参考文献]</p> <p>「対照言語学」 石綿敏雄 高田 誠(著) 桜楓社 「日本語の意味英語の意味」 小島義郎(著) 南雲堂 「文化と発想とレトリック」：日英語比較選書(1) 巻下吉夫 瀬戸賢一(著) 研究社 「発想と表現」：日英語比較講座 第4巻 国広哲弥(著) 大修館書店</p> <p>その他適宜紹介する</p>		
<p>[教科書]</p> <p>プリントを用意する</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日事情研究Ⅰ		通 期	4 単位	宮 本 孝 二
[講義概要・学習目標] この講義では、現代日本社会（現在までに至る、いわゆる戦後日本）の社会と文化の全体像を、多様な社会学的分析を通じて展望する。全体像を把握するために、便宜的に政治（行政、政党、運動など）、経済（産業、企業など）、社会生活（家族、地域、職場、学校、犯罪など）、文化（科学・技術、宗教、芸術・芸能、思想・イデオロギー、マス・メディアなど）という領域を設定し、さらにそれらの相互関連領域（生活文化など）も含めて、体系的に整理しつつ解説していく。 戦後から現在に至る日本社会といい、体系的整理といっても、あくまでも現時点で生じつつある新鮮で具体的な問題や事件をトピックスとして取り上げて、それらを戦後史を含む近代日本史、マクロなトレンド、全体的な社会構造などと関連づけて説明することによって、日事情について広くて深い理解を可能としたい。 この講義は外国人留学生だけでなく、現代日本社会についての知識を全体的かつ体系的に整理しなおし、より深い日本理解を目指す日本人学生にも有用であるので、広く受講を薦める。	[講義計画] 1 日本という国民国家 13 芸術・芸能と娯楽 2 現代日本の諸トレンド 14 思想・イデオロギー 3 バブル崩壊以後の日本政治 15 マス・メディアとマスコミ 4 バブル崩壊以後の日本経済 16 生活文化の諸相 5 家族の変容と家族問題の深刻化 6 地域社会の多様性と都市問題 7 職業人としての生き方 8 社会化と教育問題 10 犯罪・非行と社会統制 11 科学・技術の発展と社会的影響 12 宗教、新宗教、新々宗教 主として以上のようなテーマを順次講義する。			
[成績評価の方法] 原則として後期試験（授業中に配布する講義内容要約資料から出題する空欄埋め問題と、テーマを自由に設定し講義内容と関連づけて論じる記述問題）によってのみ評価する。ただし、自由提出のレポート（講義内容に関して自分で調べて書くものなど）によって加点することがある。	[参考文献] その都度指定する。			
[教科書] 特に指定せず。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日事情研究Ⅱ		通 期	4 単位	岡 村 清 人
[講義概要・学習目標] 日本が、近年飛躍的な発展を遂げている背景に、優れた工業材料の開発がいかに深いかかわりを持っているかについて講義を行う。日本の産業発展に大いに寄与している鉄鋼材料、そして、今日の半導体材料、セラミックス材料や複合材料などの先進材料が、今後の日本および世界の発展にいかに関連しつつあるかについて説明する。さらにこのような発展をもたらしている根源についても追求する。 次に、発展に伴って、生活が豊かになり、リスクを負う状況にもなる。例えば産業廃棄物による環境破壊などである。従って経済発展、資源・エネルギーの確保、地球環境保全のトリレンマの克服が今後の重要な課題である。これらの課題について言及する。	[講義計画] 〈前期〉 科学・技術について議論を行い、工業材料の発展の柱になっている鉄鋼材料に関して具体的に説明する。それらの材料の明治、大正、昭和、平成における発展の過程、社会への寄与、そして21世紀における創造的発展の可能性について、日本の教育体制などと関連させて講義を行う。 〈後期〉 今日の先進材料と呼ばれている半導体材料、セラミックス材料、複合材料などが、工業材料として日本で大いに発展している事情について講義を行う。そして、これらの工業材料の専攻的開発が日本の将来の発展にいかなる影響を与えるかについて予測する。またそれらに伴う社会のリスクについても言及する。			
[成績評価の方法] レポートを主とし、出席など総合的に考慮して評価する。	[参考文献] ・大石 嘉一郎（編）『日本産業革命の研究 上・下』（東京大学出版会） ・堂丸 昌男・山本 良一（編）久松 敬弘 他共著 『未来社会と材料工学』（東京大学出版会） ・H. W. ルイス（著） 宮永 一郎（訳）『科学技術のリスク』（昭和堂） ・村上 陽一郎（著） 『文明のなかの科学』（青土社） ・成定 薫（著）『科学と社会のインターフェイス』（平凡社自然書24）			
[教科書] 村上陽一郎（著）『科学・技術と社会』（光村教育図書）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語学概論		通 期	4 単位	有 川 康 二
【講義概要・学習目標】 日本語学習者の質問に答えてほしい。「『は』に濁点がつくと『ば』。でも、なぜ『な』は発音できないのか?」「大(おお)+型(かた)は、「おおがた」。でも、なぜ、大(おお)+風(かぜ)は、「おおがぜ」とならないのか?」「『私は学生です』の意味と『私が学生です』の意味は、同じか、違うか?」 答えられなくても心配御無用。(簡単に答えられてはこれを飯の種にしている私が困ります。)日本人なら誰でも日本語を「使う」ことはできるが、その複雑な仕組みや働きについて「説明する」ことは出来ない。(誰でも脳味噌は使えるが、脳味噌の中で何が起っているのか説明できない。)日本語学を三つの視点から概論する。①生物言語学の視点: 霊長目ヒト科哺乳類の奇形的に腫れあがった脳のニューロン群の働きの一例としての日本語。②教育学の視点: 日本語を母語としない人が効果的に日本語を習得する為の実用的な説明。③哲学の視点: 「自分とは何者か」という問いを暇な時に考える為の手がかり。	【講義計画】 <前期> 1. 文字と音 (e.g. 音素と発音の関係、拍、濁点など) 2. ことばの単位 (e.g. 連濁、形態素、活用など) <後期> 3. 文の成り立ち (e.g. 言語特徴、必須補語 vs. 副次補語、取り立て助詞「は」、埋め込み文、テンスなど)			
【成績評価の方法】 出席・筆記試験	【参考文献】 野田尚史『はじめての人の日本語文法』(くろしお出版)			
【教科書】 上山あゆみ『はじめての人の言語学—ことばの世界へ』(くろしお出版)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語文法・文体論		通 期	4 単位	有 川 康 二
【講義概要・学習目標】 外国語学習に「おかしい」文はつきものである。(※: おかしな文。) a. *困ったらいつでも私へ来なさい。 b. *私が京都で撮ったの写真 c. *私の父は山田先生を知ります。 d. *先生、私の推薦状はもうお書きになったんですか。(このままでは失礼) 何故おかしいのか。だが、彼らには彼らなりの論理がある。(a)は"come to me"と言うから。(b)は中国語では「我在京都照像的照片」で、「的」という日本語の「の」にあたるものがあるから。(c)は"know"="知る"だから。(d)は尊敬語を使用しているから問題ないはず。教科書として使用する『日本語の文法』には日本語のきまりと仕組みを探るための問いが用意してある。それらの中からポイントとなる問題を解いていく。	【講義計画】 日本語のきまりと仕組み、文の構成要素とその種類分け、「こと」の類型(述語の種類とその補語との結びつき)、「主語」「主格」「主題」、述語の活用、テンス・アスペクト、態(ヴォイス一格と動詞の形との相関)、心的態度(ムード)の表現、複文の類型、並列的接続、原因・理由、時の特定、条件の表現、連体修飾、被修飾名詞の形式化、文の名詞化と引用			
【成績評価の方法】 出席・筆記試験	【参考文献】 寺村秀夫(著)『日本語のシンタクスと意味Ⅰ』(くろしお出版) 寺村秀夫(著)『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』(くろしお出版) 寺村秀夫(著)『日本語のシンタクスと意味Ⅲ』(くろしお出版)			
【教科書】 寺村秀夫(著)『日本語の文法(上)』(国立国語研究所(日本語教育指導参考書4)) 寺村秀夫(著)『日本語の文法(下)』(国立国語研究所(日本語教育指導参考書5))				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
語彙・意味論		前 期	2 単位	藤 原 健
[講義概要・学習目標] <p>ことばによる表現が、単語を一定の文法規則に従って文の形にまとめ上げることであるとすれば、表現にはいくつかの単語が使われていると考えるのが普通であろう。私たちが使っている日本語も、数多くの単語を意味伝達的手段として、それを文や文章、談話の形にまとめ上げているのである。「語彙」とは、このような文章や談話を形成するための要素として用いられる単語の集まりのことであり、言語にとって文法と同等に重要な要素である。</p> <p>この講義では、日常的な平易な用例をもとに、日本語の語彙の意味や構成を分類し、普段使っている日本語の語彙について、いろいろな面から考えてみたい。なお、テキストは後期の「文字・表記論」と共通である。両方登録する学生は、同じものを2冊購入しないように。</p>		[講義計画] <ol style="list-style-type: none"> 1. 単語と語彙 <ol style="list-style-type: none"> 1) 単語とは 2) 語彙とは 3) 語形 2. 語の数 <ol style="list-style-type: none"> 1) 基礎語彙と基本語彙 2) 使用語彙と理解語彙 3) 語数とカバー率 3. 語の種類(語種) 4. 語構成と造語法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 語の構成成分 2) 造語法 3) 造語に伴う音声変化 5. 語の意味 6. 構文・文型における語彙 7. 文章と談話における語彙 		
[成績評価の方法] <p>定期試験(半期科目であるので、前期1回)により評価する。 詳しくは、授業初回に説明する。</p>		[参考文献] <p>浅野百合子(著)『教師用日本語教育ハンドブック⑥語彙』 (国際交流基金/凡人社)</p> <p>森田良行・村木新次郎・相沢正夫(編)『ケーススタディ・日本語の語彙』 (おうふう)</p>		
[教科書] <p>清水義昭(編)『概説 日本語学・日本語教育』(おうふう)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
文字・表記論		後 期	2 単位	藤 原 健
[講義概要・学習目標] <p>言語は、音声を媒体とした音声言語と、文字を媒体とした文字言語とに大別できる。この講義では、これらのうち後者の媒体となっている文字について、日本語ではどのように用いられているかを考えていく。</p> <p>日本語の表記に用いられる文字は数種類も多く、また使いかたが複雑である。外国人の日本語学習者にとって、日本語の文字・表記は習得が大変で、ネックになることが多い。この講義では、日本語教育の立場から、実践の場で教師に求められる文字・表記に関する知識と、指導する際に注意しなければならない点などを考えていきたい。</p> <p>この大学の「日本語教員資格科目」には日本語の音声を扱う科目がないので、この講義に必要な最小限の音声(学)に関する内容を、テキストを参照しながら適宜説明したい。</p> <p>なお、テキストは前期の「語彙・意味論」と共通である。両方登録する学生は、同じものを2冊購入しないように。</p>		[講義計画] <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語の表記法と基準 <ol style="list-style-type: none"> 1) 漢字の表記法(「常用漢字表」) 2) 平仮名の表記法(「(改定)現代仮名遣い」) 3) 片仮名の表記法(「外来語の表記」) 4) 送り仮名の付け形 5) ローマ字の種類と表記法 2. 文字に関する知識 <ol style="list-style-type: none"> 1) 漢字(の成り立ち) (六書, 部首, 画数, 字形等) 2) 仮名(の成り立ち) (真名, 平仮名, 片仮名等) 		
[成績評価の方法] <p>定期試験(半期科目であるので、後期1回)により評価する。 詳しくは、授業初回に説明する。</p>		[参考文献] <p>富田隆行・真田和子(共著)『教師用日本語教育ハンドブック②新・表記』 (国際交流基金/凡人社)</p>		
[教科書] <p>清水義昭(編)『概説 日本語学・日本語教育』(おうふう)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語Ⅲ (外国人留学生用)		通 期	4 単位	藤 原 健
【講義概要・学習目標】 大学に入って1年以上経ち、留学生として日本語の実力不足を自分たち自身がいちばん痛感しているのではないだろうか。 日本語の能力が不十分なまま大学に入り、その後、日本語の能力は伸びず、むしろ専門の科目の勉強などに忙しく、日本語そのものの勉強まで手が回らなくなっているのが現状ではないかと思う。さらに、テキストなどに出てくる日本語と、実際回りで見聞きする日本語の差に驚いているのではないだろうか。実際、日本人はあのような日本語の語彙や表現を、日本語学校の先生たちのような発音で口にするのではないのである。 この授業では、学部の講義で用いられるテキストの文体に慣れるため、心理学・数学・衛生学・生物学などの専門書のぼっすいを丁寧に読み進め、内容の把握に努める。また、内容を要約する練習も行う。 また、『インタビューで学ぶ日本語』（凡人社）のいくつかの課を使用して、普通の日本人の日本語を聞き取る練習をする。		【講義計画】 <読解> (1)各専門分野の文章を読む ・語彙や文型を考える ・内容の把握をする ・シートの設問に答える (2)課によって、要約をする <聴解> (1)インタビューのテープを聞く ・会話の大意をつかむ ・シートの問いに従い、聞き直す ・設問に答える ・ストラテジーなどについて考える ・スクリプトを見ながら再度聞く (2)会話の内容について話し合う ・タスクシートの設問を利用する		
【成績評価の方法】 出席を重視し(年授業回数の3分の2以上が必要)、評価は進度に応じて年に数回の平常試験(4回程度)で行う。 詳しくは、授業初回に説明する。		【参考文献】 堀歌子・三井豊子・森松映子(共著)『インタビューで学ぶ日本語』(凡人社) 山本一枝・田山のり子・坂本恵(共著)『はじめての専門書』(凡人社)		
【教科書】 使用しない				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語研究特講 (日本語を英語で教える)		通 期	4 単位	有 川 康 二
【講義概要・学習目標】 日本語文法の様々な項目の中から、学習者、教師ともに混乱しやすい項目を取り上げ、その効果的な導入方法や練習方法について考える。教材は英文で日本語の文法を説明しているものを使用する。授業も英語で行う。 勿論、日本語は日本語で教えるのが最も高い学習効果を期待できるであろう。しかし、現代という時期における英語の重要性を考慮すると、特に海外、少なくとも英語を媒介言語とできるところで日本語を教えるという仕事をしてみたいと思っている人にとって、日本語を、英語を通して説明する方は必要である。もっと一般的に言えば、何語でもよいのだが、例えば、日本語とは一見似ても似つかぬ英語という「鏡」に日本語を映してみても(比較や説明を通して)はじめて見えてくることもあるのだ(本当は「人間の言語」という意味で共通の原理が働いているのだが)。		【講義計画】 毎回、問題となる文法項目の英文フリントを使用し、その解説、及び検討を行う。複数の文法書の説明の相違点に注意しながら読む。		
【成績評価の方法】 出席と筆記試験		【参考文献】 Alfonso, A. 1980 <i>Japanese Language Patterns</i> . Center for Japanese Studies of Sophia University. Endo-Simon, M. 1986 <i>Supplementary Grammar Notes to an Introduction to Modern Japanese</i> . Center for Japanese Studies, The University of Michigan. Jordan, H. E. and Noda, M. 1987 <i>Japanese: The Spoken Language</i> . Yale University Press. Makino, S. and Tsutsui, M. 1986 <i>A Dictionary of Basic Japanese Grammar</i> . The Japan Times. Makino, S. and Tsutsui, M. 1995 <i>A Dictionary of Intermediate Japanese Grammar</i> . The Japan Times.		
【教科書】 こちらで準備する。				